

Basilware 搭載機種用
WBT インターフェイス 操作/設定ガイド

はじめに

このたびは、株式会社ミントウェーブのシンククライアント端末をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

弊社シンククライアント端末の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本ガイドをよくお読みになり、装置の取り扱いを十分にご理解いただけるようお願い申し上げます。

本ガイドについて

本ガイドは、弊社シンククライアント端末のうち Basilware 搭載機種

- MiNT-ACC mini-30U
- MiNT-ACC Lite-50U

の WBT インターフェイスの操作/設定方法について説明したものです。

ハードウェアのセットアップについては、各機種のセットアップガイド/スタートアップガイドを参照してください。ガイドの入手方法については、株式会社ミントウェーブまたはお買い求めの販売店までお問い合わせください。

－目次－

1. Basilware 搭載機種用 WBT インターフェイス セットアップの流れ	5
1.1 セットアップの流れ	5
2. セットアップウィザード	6
2.1 設定項目	6
2.2 設定方法	6
2.2.1 ネットワーク設定	7
2.2.2 ディスプレイの設定	11
2.2.3 現在時刻の設定	13
2.2.4 ターミナルのパスワード設定	16
2.2.5 セットアップウィザードの設定完了画面	17
3. 接続マネージャ	18
3.1 操作項目	18
3.2 操作方法	19
3.2.1 新規接続エントリの登録	19
3.2.2 接続エントリの編集	21
3.2.3 接続エントリの削除	22
3.2.4 接続エントリのスタートアップ設定	23
3.2.5 サーバーへの接続	24
3.2.6 サーバーとの接続終了	25
3.2.7 複数の接続セッションの管理	26
3.3 接続エントリの設定項目について	28
3.3.1 ICA 接続エントリ	28
3.3.2 RDP 接続エントリ	36
3.3.3 GO-Global サーバー接続情報の登録	42
4. プロパティシート	44
4.1 ターミナルのプロパティ一覧	44
4.2 プロパティシート設定項目および設定方法	45
4.2.1 [全般]タブ内の設定	45
4.2.2 [画面]タブ内の設定	46
4.2.3 [入力]タブ内の設定	48
4.2.4 [音声]タブ内の設定	49
4.2.5 [コントロールパネル]タブ内の設定	50
4.2.6 [セキュリティ]タブ内の設定	51
4.2.7 [アドバンス]タブ内の設定	52
4.2.8 [WBT 情報]タブ内の設定	53

5. グローバル ICA クライアントの設定.....	54
5.1 [基本設定] タブ内の設定.....	55
5.2 [サーバーの場所] タブ内の設定.....	56
5.3 [ドライブマッピング] タブ内の設定.....	58
5.4 [ファイアウォール] タブ内の設定.....	59
6. セキュリティ機能.....	61
6.1 端末セキュリティ機能の種類.....	61
6.2 ターミナル設定のパスワード.....	62
6.3 接続マネージャ [構成] タブの非表示化.....	64
6.4 ユーザー認証機能.....	65
6.5 IEEE802.1x 認証機能.....	69
7. 周辺機器の接続.....	70
7.1 USB ストレージデバイスの利用.....	70
7.2 ローカルプリンタの利用.....	76
7.3 タッチパネルモニタの利用.....	84

1. Basilware 搭載機種用 WBT インターフェイス セットアップの流れ

ご利用いただける状態になるまでの手順を示します。

1.1 セットアップの流れ

ご利用いただける状態になるまでの手順は、以下の通りです。

- **箱を開ける**
↓
- **本体に機器を接続する**
↓
- **本体の電源を入れる**
↓
- **セットアップウィザードを実行する** ----- 2.セットアップウィザードを参照
システム環境のセットアップを行います。
↓
- **接続先サーバを登録する** ----- 3.接続マネージャを参照
接続先サーバのサーバ情報等を登録します。
↓
- **サーバへの接続を行う** ----- 3.接続マネージャを参照
登録したサーバへの接続を行います。
↓
- **ログオフ**
シンクライアント端末の電源を OFF する前にログオフを行います。

2. セットアップウィザード

セットアップウィザードは、サーバーへの接続環境の設定を行うユーティリティです。

このユーティリティは、購入後はじめて弊社シンクライアント端末の電源を ON した時、および後述のプロパティシートの項目で、**[ターミナルを出荷時の設定に初期化する]** を有効にした後の再起動時に表示されます。

2.1 設定項目

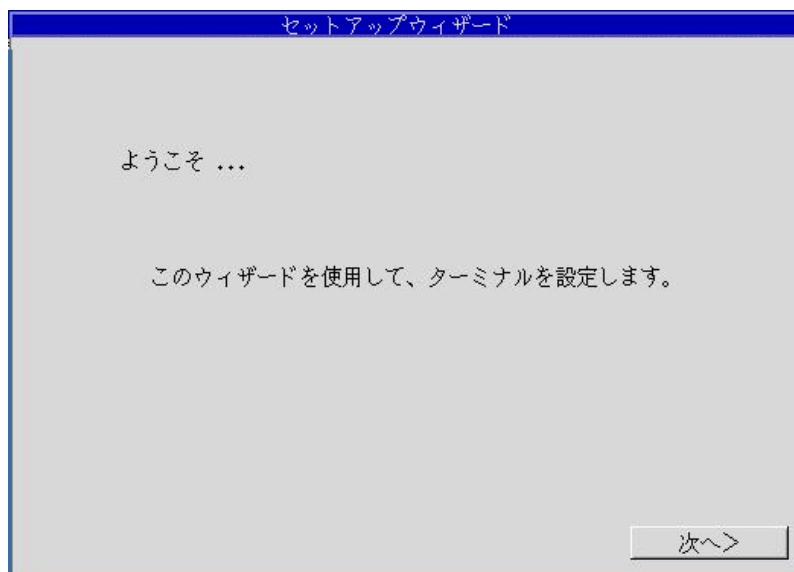
セットアップウィザードで設定する項目は、以下の通りです。

- ①ネットワーク
- ②画面
- ③日付/時刻
- ④セキュリティ

2.2 設定方法

セットアップウィザードの設定項目の設定方法について順に説明します。

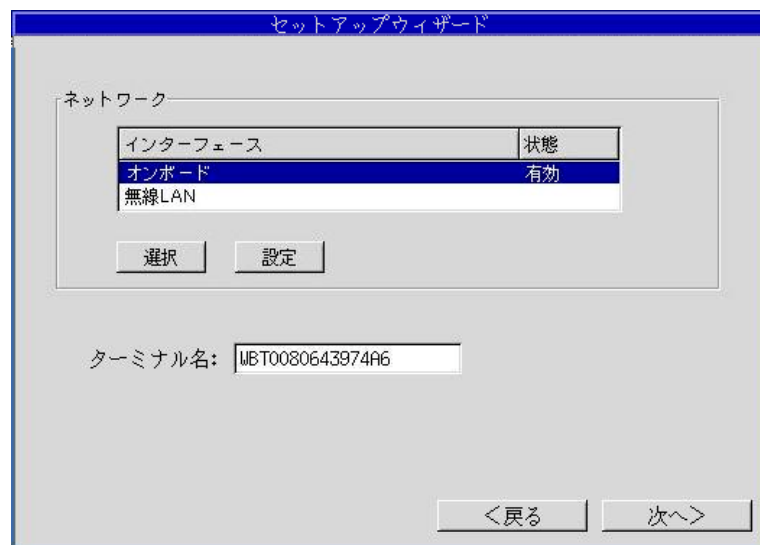
まず、下記のようなセットアップウィザードの開始画面が表示されます。



[次へ>] ボタンをクリックします。

2.2.1 ネットワーク設定

セットアップウィザード開始画面にて **[次へ>]** ボタンをクリックすると、ネットワーク設定画面が表示されます。



この画面では、弊社シンクライアント端末が使用するネットワークインターフェースおよび IP アドレスの設定、無線 LAN の設定などを行います。

<ネットワークインターフェースの選択>

[ネットワークの選択] フィールド内に、弊社シンクライアント端末が使用できるネットワークインターフェースがリストアップされています。使用中のインターフェースは、**[状態]** が **[有効]** と表示されています。

弊社シンクライアント端末では、下記の 2 種類のネットワークインターフェースが使用可能です。

・オンボード

弊社シンクライアント端末に標準で搭載されているネットワークインターフェースです。

・無線 LAN

オプションの USB 無線 LAN アダプタを接続した場合に使用できます。

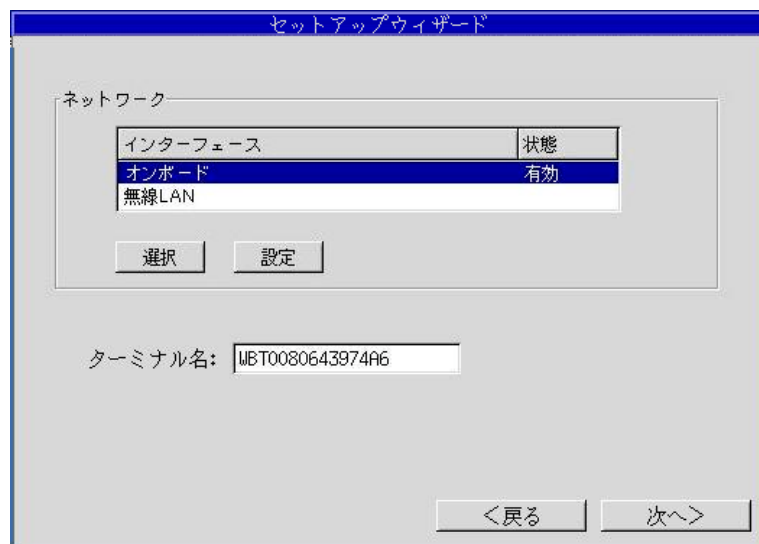
備考: 弊社シンクライアント端末の無線 LAN インターフェースとして設定できる無線 LAN アダプタは、次の通りとなります。

- MiNT-ACC mini-30U, MiNT-ACC Lite-50U!

->弊社がオプションで提供している無線 LAN アダプタのみ対応。

<使用するネットワークインターフェイスの変更>

1. 使用するインターフェイスを変更する場合は、使用したいインターフェイスを選択し、**[選択]** ボタンをクリックしてください。



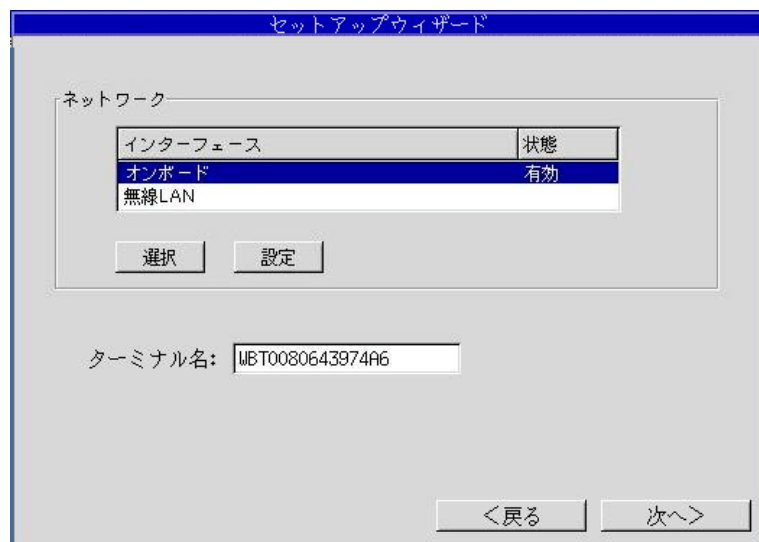
2. 選択されたインターフェイスの状態が **[有効]** に切り替わり、使用可能となります。

備考:

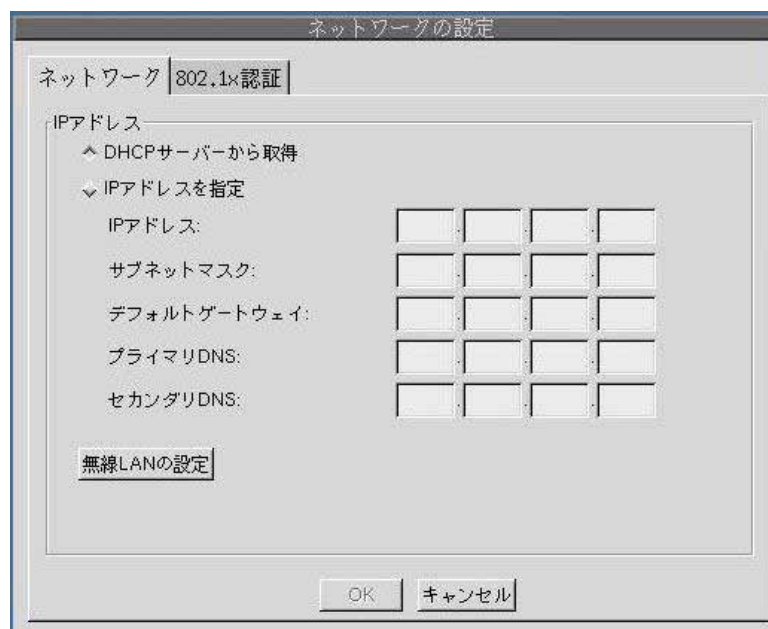
インターフェイスの IP アドレス設定等を変更するには、**[有効]** 状態のインターフェイスを選択して **[設定]** をクリックします。

<IP アドレスの設定手順>

1. <使用するネットワークインターフェースの変更>を参照し、IP アドレスを設定するネットワークインターフェースの状態を **[有効]** にします。
2. IP アドレスを設定するネットワークインターフェースを選択し、**[設定]** ボタンをクリックします。



3. **[ネットワークの設定]** 画面が表示されます。
[DHCP サーバーから取得/ IP アドレスを指定] のいずれかを選択し、IP アドレスを指定を選択した場合は、IP アドレス、サブネットマスクなどを設定します。



4. 無線 LAN インターフェースに関する設定を行う時は、**[無線 LAN の設定]** ボタンをクリックします。
(**[無線 LAN の設定]** ボタンは、無線 LAN インターフェース選択時のみ表示されます)

5. 以下のような**[無線 LAN]** ダイアログが表示されるので、SSID、暗号化等を設定し、**[OK]** ボタンをクリックします。

[無線 LAN の設定] ダイアログボックスには、下記の設定項目があります。

[SSID]

通信を行う無線 LAN の SSID を入力します。

[通信モード: AdHoc/インフラストラクチャ]

無線 LAN の通信モードを指定します。(デフォルト:AdHoc)

[暗号化]

暗号化(WEP)の方式を指定します。以下の値から選択できます。

(デフォルト:なし)

- ・なし
- ・WEP(40 ビット)
- ・WEP(104 ビット)

[WEP キー]

暗号化を指定する場合、WEP キーを入力します。ASCII 文字列、16 進数が使用できます。

6. ネットワーク情報を入力後、設定を保存するため、**[OK]** ボタンをクリックします。

[ネットワークの設定] 画面が終了し、セットアップウィザード画面に戻ります。

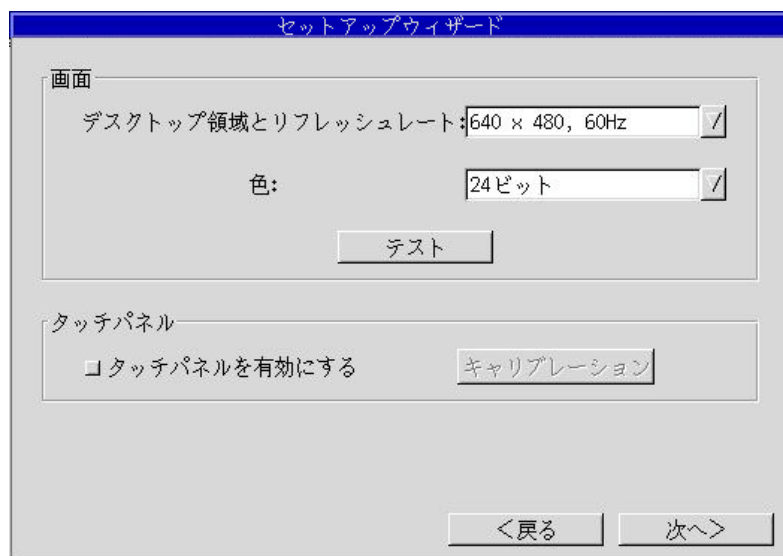
<ターミナル名の設定>

[ターミナル名] に、弊社シンクライアント端末に設定するターミナル名を入力します。
任意の名前を設定する場合は、他のターミナルで使用していない名前を設定します。

設定が終了したら、**[次へ>]** ボタンをクリックします。

2.2.2 ディスプレイの設定

ネットワーク設定画面にて **[次へ>]** ボタンをクリックすると、ディスプレイ設定画面が表示されます。



この画面では、ディスプレイとタッチパネル機能の設定を行います。

【画面】

ディスプレイ装置の解像度、リフレッシュレート、および表示色数の設定を行います。

【デスクトップ領域とリフレッシュレート】

ご使用のディスプレイ装置に合わせて、解像度およびリフレッシュレートを設定します。

変更する場合は、右側の▼をマウスでクリックして使用できる値を選択してください。以下の値から選択します。(デフォルト: 640 x 480, 60Hz)

・640 x 480, 60Hz	・800 x 600, 75Hz	・1024 x 768, 75Hz
・640 x 480, 73Hz	・800 x 600, 85Hz	・1024 x 768, 85Hz
・640 x 480, 75Hz	・1024 x 768, 60Hz	・1280 x 1024, 60Hz
・800 x 600, 72Hz	・1024 x 768, 70Hz	・1280 x 1024, 75Hz

【色】

ディスプレイ画面の色数を設定します。右側の▼をマウスでクリックして使用する値をクリックしてください。以下の値から選択します。(デフォルト: 24 ビット)

- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット

[テスト] ボタン

[デスクトップ領域とリフレッシュレート] および **[色]** で選択した設定が、ご使用のディスプレイ装置で正常に表示できるか、5秒間の表示テストを行います。

<ディスプレイの設定手順>

1. **[デスクトップ領域とリフレッシュレート]** および **[色]** の項目で、それぞれ使用したい設定を選択します。
2. **[テスト]** ボタンをクリックし、**[デスクトップ領域とリフレッシュレート]** および **[色]** で選択した設定が、ご使用のディスプレイ装置で正常に表示できるかをテストするため、5 秒間の表示テストを行います。
3. 5 秒後、セットアップウィザード画面に戻ります。表示結果に問題があれば、設定を変更しながらテストを繰り返します。

[タッチパネル]

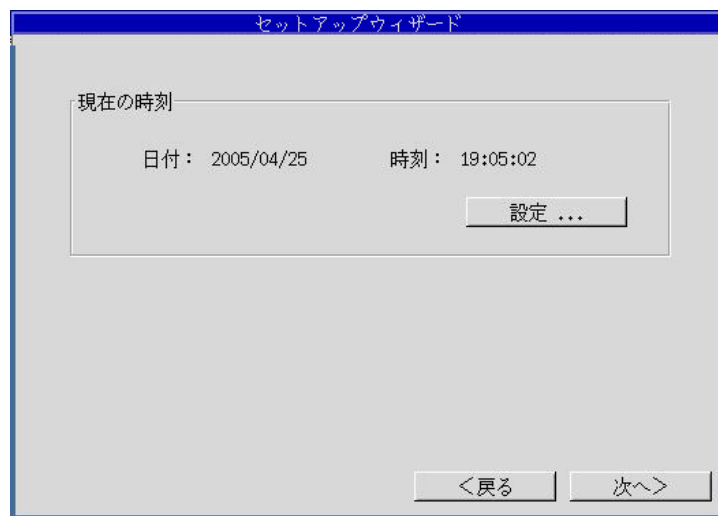
タッチパネル機能の設定を行います。

設定方法は、7.3 タッチパネルモニタの利用を参照下さい。

設定が終了したら、**[次へ>]** ボタンをクリックします。

2.2.3 現在時刻の設定

ディスプレイ設定画面にて **[次へ>]** ボタンをクリックすると、現在の日付/時刻設定画面が表示されます。



この画面では、現在の日付、時刻の設定を行います。

[設定] ボタンをクリックすると、以下のような **[時間設定]** ダイアログボックスが表示されます。



<現在の日付/時刻の設定手順>

- 手動で変更するには
 1. 日付を変更するため、カレンダー内の変更する項目を選択します。
 - 月を変更するには、月の一覧の矢印をクリックし、正しい月をクリックします。
 - 年を変更するには、年の一覧で左右の矢印をクリックします。
 - 日を変更するには、カレンダーで正しい日をクリックします。

時間設定

現在の日付/時刻

◀ 4月 ▶ ▶ 2005 ▶

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7

時刻: 21 : 23 : 42

ネットワークタイム

サーバ: ntp.example.co.jp

☐ ブート時に時刻を同期 同期

OK キャンセル

2. 時刻を変更するため、時刻ボックスに新しい値を入力します。
 3. 設定を保存するため、[OK] ボタンをクリックします。
- ネットワークタイムサーバによって時刻の同期をとるには
 1. サーバボックスに時刻同期に使用するタイムサーバを入力します。
入力後、[同期] ボタンをクリックすると、時刻は即座に同期されます。
 2. 弊社シンクライアント端末を起動する度にネットワークタイムサーバと時刻同期を行う場合は、[ブート時に時刻を同期] チェックボックスを有効にします。
 3. 設定を保存するため、[OK] ボタンをクリックします。

設定が終了したら、[次へ>] ボタンをクリックします。

備考:

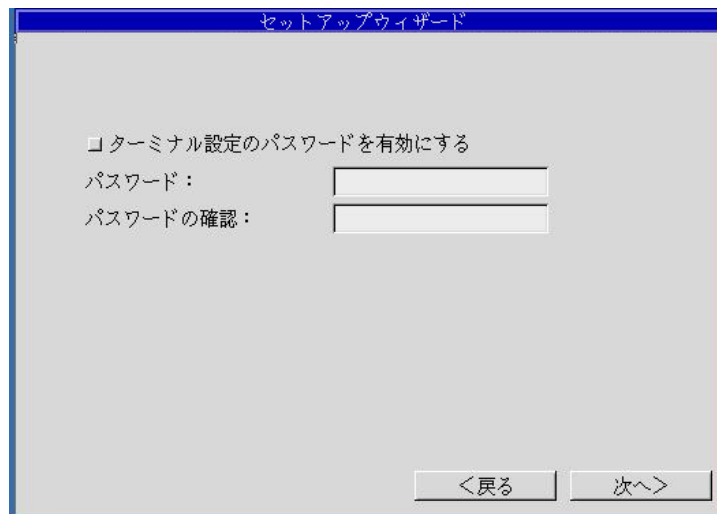
- MiNT-ACC mini-30U, MiNT-ACC Lite-50U 利用時

MiNT-ACC mini-30U, MiNT-ACC Lite-50U で動作するローカルクロックは、AC アダプタから給電が行われている間のみ、動作が行われます。AC アダプタからの給電がストップしますと、ローカルクロックに設定された日付/時刻設定が消去・初期化されます。

USB メモリ等のストレージデバイスを接続して、ファイル/フォルダの保存を行う場合、弊社シンクライアント端末内で設定されている日付/時刻が保存日時として記録されますので、USB ストレージデバイスを使用する場合は、[ネットワークタイムサーバー] 項目および、[ブート時に時刻を同期] を有効にし、端末の電源起動時に、自動的に現在の日付/時刻を設定することをおすすめいたします。

2.2.4 ターミナルのパスワード設定

現在の日付/時刻の設定画面にて **[次へ>]** ボタンをクリックすると、ターミナルのパスワード設定画面が表示されます。



この画面では、プロパティシートのパスワードを設定します。

ターミナルプロパティの登録内容をパスワードによって保護したい場合は、「**ターミナル設定のパスワードを有効にする**」チェックボックスを有効にし、パスワードを設定してください。

ここでパスワードを指定すると、次回ターミナルプロパティ起動時 (接続マネージャ画面で [F2] キーを押した時) から次のようなダイアログが表示され、パスワードの入力を求められるようになります。



備考：

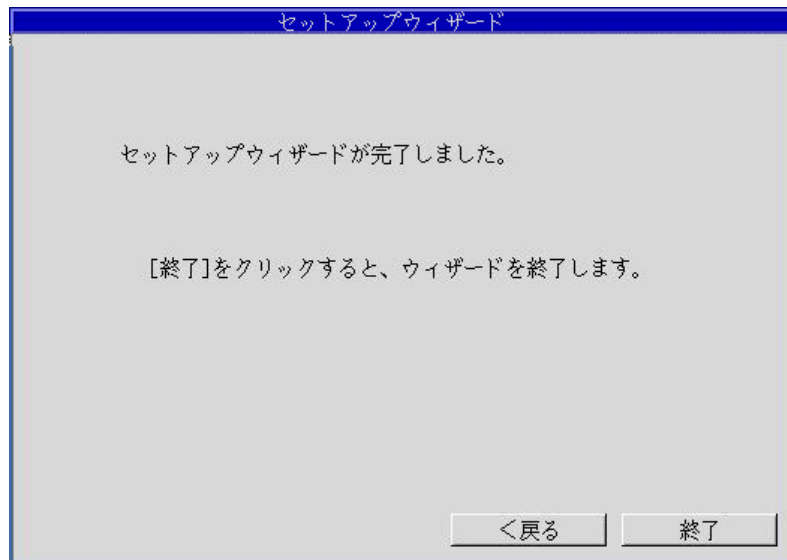
設定したパスワードの変更やパスワード設定の解除は、ターミナルプロパティ「セキュリティ」タブ内で行います。

設定が終了したら、**[次へ>]** ボタンをクリックします。

2.2.5 セットアップウィザードの設定完了画面

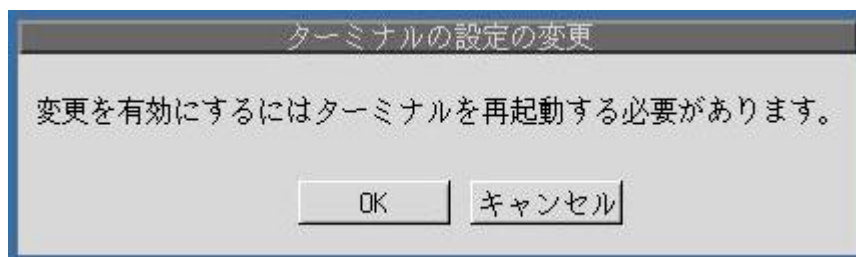
ターミナルのパスワード設定画面にて、[次へ>] ボタンをクリックすると、セットアップウィザードの設定完了画面が表示されます。

この画面では、ここまでに設定した設定内容を有効にしてセットアップウィザードを完了するかどうかを決定します。



ここまでの設定内容に誤りがなければ **[終了]** ボタンをクリックしてください。

[終了] ボタンをクリックすると、以下のような再起動を要求するダイアログが表示されます。



再起動後、接続マネージャが表示されます。3. **接続マネージャ**に進んでください。

3. 接続マネージャ

セットアップウィザードを完了すると、以下のような [接続マネージャ] 画面が表示されます。
以後、弊社シンクライアント端末の電源起動時には、[接続マネージャ] が表示されます。



接続マネージャは、弊社シンクライアント端末がサーバーとの接続に使用する接続エントリの登録、編集を行ったり、サーバとの接続を実行するユーティリティです。

サーバとの接続セッションからログオフした際にも表示され、他の接続エントリを起動することができます。
また、サーバとの接続セッションを実行中に、キーボードの [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを同時に押下することにより任意の時点で表示させることができ、複数の接続セッションを同時に実行することも可能です。

3.1 操作項目

接続マネージャには、サーバーとの接続のための情報を設定する項目と、実際にサーバーへの接続および切断を行う項目などがあります。各項目の内容は以下の通りです。

●サーバーとの接続のための情報を設定する項目

- [追加] 接続したいサーバーの情報を接続エントリとして登録します。
- [編集] 登録済の接続エントリを編集します。
- [削除] 登録済の接続エントリを削除します。
- [スタートアップ] 登録済の接続エントリに、端末電源起動時の状態を設定します。

●接続および切断を行う項目

- [接続] 選択した接続エントリを起動し、サーバーに接続します。
- [終了] 選択したサーバーとの接続を切断します。

●その他の項目

- [シャットダウン] 弊社シンクライアント端末をシャットダウン/再起動します。

3.2 操作方法

接続マネージャの各項目の操作方法について順に説明します。

3.2.1 新規接続エントリの登録

弊社シンクライアント端末からサーバーに対して接続を実行するには、接続マネージャに接続エントリ情報を登録する必要があります。

下記の手順で、接続マネージャに接続エントリを新規登録します。

1. 接続マネージャの **[構成]** タブをクリックし、設定画面の **[追加]** ボタンをクリックします。



2. **[接続エントリの種類]** 選択画面が表示されます。

接続するサーバの種類に応じて、コネクションの種類を選択し、**[OK]** ボタンをクリックします。



弊社シンクライアント端末に登録できる接続エントリは、接続サーバの種類により、以下 3 種類のプロトコルをサポートしております。

- | | |
|------|---|
| ・ICA | …Citrix サーバー接続 (Citrix Presentation Server) |
| ・RDP | … ターミナルサーバー接続 (Microsoft Windows Server) |
| ・RXP | …GO-Global サーバー接続 (Graphon GO-Global Server) |

各プロトコルにおける詳細な接続エントリの設定方法については、3.3 接続エントリの設定項目について をご参照ください。

3. コネクションの種類(プロトコル)に応じた設定画面が表示されます。
(図は、RDP 接続エントリの作成/編集 画面の例)

RDP接続エントリの作成/編集

全般 画面 ローカルリソース プログラム エクスペリエンス

接続エントリ

名前: rdp-test

サーバー: 192.168.0.1

☒ 自動ログイン

ユーザー名:

パスワード:

ドメイン:

☐ データ圧縮 *** 色数が8ビットでないと有効になりません ***

OK キャンセル

以降は、3.3 **接続エントリの作成/編集** 項の指示に従い設定を行い、[OK] ボタンをクリックして接続エントリを登録してください。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、新規登録が中止されます。

接続エントリを新規登録すると、接続マネージャに新しく設定した接続エントリが表示されます。

接続マネージャ

接続エントリ 構成

コネクション

名前	種類	スタートアップ
rdp-test	RDP	設定

追加 編集 削除 スタートアップ

3.2.2 接続エントリの編集

接続マネージャに登録された接続エントリの設定内容は、下記の手順で変更します。

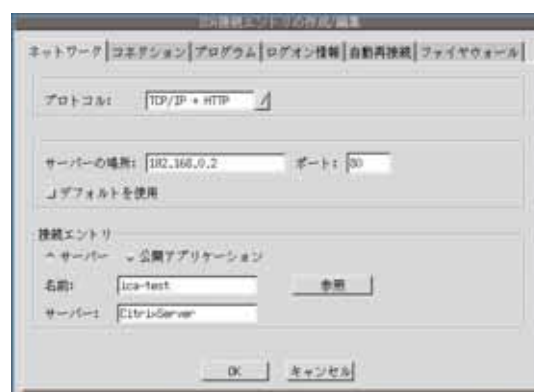
1. まず、接続マネージャの **[構成]** タブをクリックしてください。



2. 設定変更したい接続エントリをクリックして選択し、ダブルクリックもしくは、**[編集]** ボタンをクリックします。



3. 選択した接続エントリの編集画面が表示されます。
(図は、ICA 接続エントリの作成/編集 画面の例)



4. 変更したい項目を修正後、**[OK]** ボタンをクリックすると、入力された設定変更が反映され、接続エントリが再登録されます。
[キャンセル] ボタンをクリックすると、編集を中断し設定の保存を中止します。

3.2.3 接続エントリの削除

接続マネージャに登録された接続エントリは、下記の手順で削除することができます。

1. 接続マネージャの **[構成]** タブ内で、削除したい接続エントリをクリックして選択し、**[削除]** ボタンをクリックすると、以下のような確認ダイアログが表示されます。



2. 削除確認ダイアログで、**[OK]** ボタンをクリックすると、選択された接続エントリが削除され、接続マネージャに戻ります。

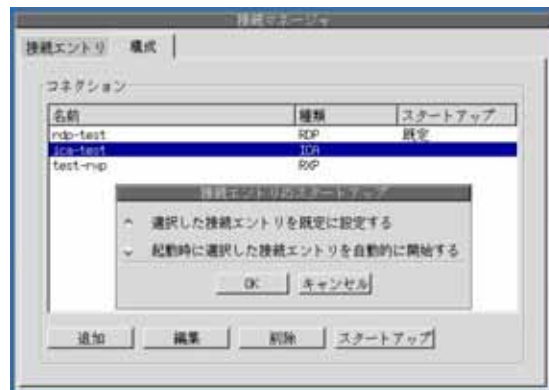


[キャンセル] ボタンをクリックすると、削除されずに接続マネージャに戻ります。

3.2.4 接続エントリのスタートアップ設定

登録済みの任意の接続エントリに対し、電源起動時の状態 (デフォルトで選択状態にする/自動的に実行開始する) を設定できます。

1. 接続マネージャの **[構成]** タブ内で、スタートアップ設定を行いたい接続エントリをクリックして選択し、**[スタートアップ]** ボタンをクリックすると、以下のようなスタートアップ設定ダイアログが表示されます。



スタートアップ設定ダイアログで、

[選択した接続エントリを既定に設定する] を設定した場合

選択した接続エントリが、接続マネージャ起動時のデフォルトエントリとして設定されます。

[起動時に選択した接続エントリを自動的に開始する] を設定した場合

選択した接続エントリが、端末の電源起動時に自動的に実行開始されます。

2. スタートアップ設定ダイアログで、設定したい項目を選択し、**[OK]** ボタンをクリックすると、選択した接続エントリに、端末起動時のスタートアップ状態 (既定、もしくは自動起動) が設定され、接続マネージャに戻ります。

(図は、**[起動時に選択した接続エントリを自動的に開始する]**を設定した場合)



[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、スタートアップ状態が設定されずに接続マネージャに戻ります。

3.2.5 サーバーへの接続

登録済みの接続エントリを実行して、弊社シンクライアント端末からサーバーに接続します。

1. まず、接続マネージャの **[接続エントリ]** タブをクリックします。
登録済みの接続エントリがあれば一覧に表示されます。



2. 一覧から実行したい接続エントリを選択し、その項目をダブルクリックするか、もしくはクリックして選択したあと **[接続]** ボタンをクリックします。



下記のように、サーバーへ接続を行うことができます。(写真は ICA 接続エントリの例)



3.2.6 サーバーとの接続終了

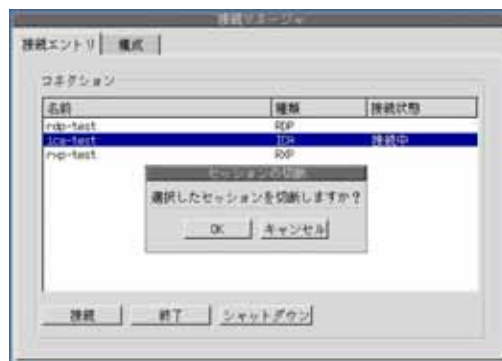
[終了] ボタンは、接続中のサーバーからログオフせずに運用状態を保持したままセッションを切断したい場合に使用します。

なお、本操作により切断したサーバーに再度接続すると、セッションを切断した状態から運用を再開できます。

1. サーバーと接続しているときに、**[Ctrl] + [Alt] + [Del]** キーを押下すると接続マネージャが表示されます。サーバーとの接続が行われている接続エントリは、接続状態が **[接続中]** で表示されます。



2. **[接続中]** の接続エントリを選択し、**[終了]** ボタンをクリックすると、下記の **[セッションの切断]** ダイアログが表示されます。



3. 選択された接続エントリの **[接続中]** 表示が解除され、サーバーとの接続が切断されます。



3.2.7 複数の接続セッションの管理

弊社シンクライアント端末では、複数の接続セッションを同時に実行することが可能です。同時に実行可能な接続セッション数は、以下の要因によって決まります。

- ◇ メモリの容量
- ◇ オープン状態にある接続のタイプ
- ◇ 設定されているセッションの数

複数セッションの起動方法

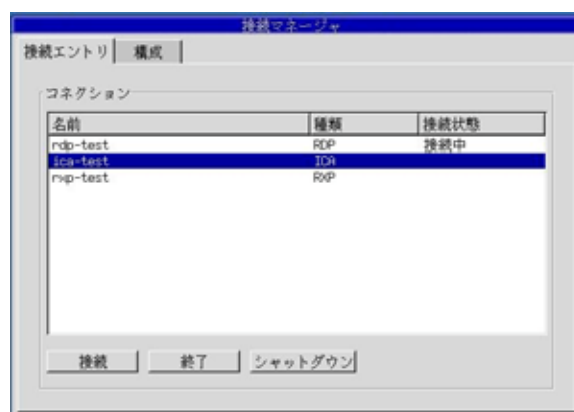
複数の接続セッションを同時に実行するには、以下のように操作します。

1. 接続マネージャの **[接続エントリ]** タブ内で、接続エントリを選択し、**[接続]** ボタンをクリックしてサーバーセッションを起動します。
2. サーバーセッション内で操作を行っているときに、**[Ctrl] + [Alt] + [End]** キーを押すことにより、接続マネージャに戻ることができます。

接続しているセッションは、接続状態が **[接続中]** で表示されます。



3. 接続マネージャ内で他の接続エントリをダブルクリックして、別のサーバーセッションを起動します。



4. 起動したサーバーセッション毎に、2.～3.の操作を行うことにより、複数のセッションを同時に実行することが可能です。



5. また、**[接続中]**で表示された接続エントリをダブルクリックもしくは選択して**[接続]**ボタンをクリックすると、実行中の接続セッションの操作に復帰することができます。

3.3 接続エントリの設定項目について

弊社シンクライアント端末から、ネットワーク上のサーバに接続して使用するには、接続マネージャに、接続エントリを登録して実行する必要があります。

登録できる接続エントリは、接続サーバの種類により、以下の3種類のプロトコルをサポートしております。

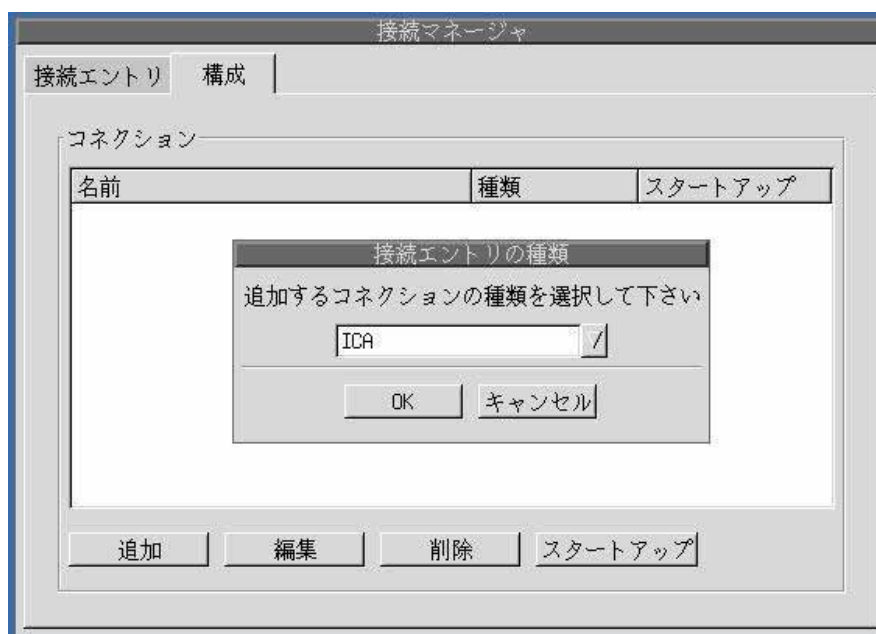
- ・ICA …Citrix サーバー接続 (Citrix Presentation Server)
- ・RDP …ターミナルサーバー接続 (Microsoft Windows Server)
- ・RXP …GO-Global サーバー接続 (Graphon GO-Global Server)

以下、プロトコルの種類によって、設定方法を示します。

3.3.1 ICA 接続エントリ

Citrix Presentation Server に接続する場合は、接続マネージャに ICA 接続エントリの登録を行います。

ICA 接続エントリを登録するには、接続マネージャで **[追加]** ボタンをクリックし、**[接続エントリの種類]** 画面にて ICA を選択してください。



以下のような [ICA 接続エントリの作成/編集] 画面が表示されます。



登録する ICA 接続エントリ毎に以下の情報を設定する必要があります。

- ・ネットワーク

ICA ブラウズ設定および接続サーバー情報、接続エントリ名を設定します。

- ・コネクション

ウィンドウの表示色数およびデータ圧縮、暗号化、SpeedScreen などを設定します。

- ・プログラム

ログオン時に、特定のアプリケーションのみを起動する場合に設定します。

- ・ログオン情報

ICA コネクション起動時に、特定のユーザーで自動ログオンする場合に設定します。

- ・自動再接続

ICA コネクション実行中に、ネットワーク障害などで接続が中断された際、切断されたセッションに再接続を試行する場合に設定します。

- ・ファイヤウォール

ファイヤウォール内部の Citrix サーバーに対して、ファイヤウォール外部から ICA コネクションを行う場合に設定します。

必要な情報を設定後、[ICA 接続エントリの作成/編集] 画面下部の [OK] ボタンをクリックしてください。[接続マネージャ] に ICA 接続エントリが登録されます。



3.3.1.1 [ネットワーク]タブ内の設定

[ネットワーク] タブ内では、ICA ブラウズ設定および接続サーバー情報、接続エントリ名を設定します。



以下の設定項目があります。

[プロトコル]

ICA ブラウズに使用するプロトコルを設定します。

以下の値から選択します。(デフォルト: TCP/IP + HTTP ※)

- ・TCP/IP + HTTP
- ・TCP/IP
- ・SSL/TLS + HTTPS

※ デフォルトは、[グローバル ICA クライアントの設定]画面での操作により、変更することができます。

[サーバーの場所/ポート]

ICA ブラウズに使用するサーバーおよびポート番号を設定します。

[デフォルトを使用]チェックボックスを有効にすると、

- ・[プロトコル]が TCP/IP の場合

ブロードキャストを送出します。

- ・[プロトコル]が TCP/IP + HTTP もしくは SSL/TLS + HTTPS の場合

DNS 名が ica のサーバーに ICA ブラウズを要求します。

[MetaFrame サーバー/公開アプリケーション]

接続するサーバーの種類を選択します。サーバーを選択して Citrix サーバーに接続するか、公開アプリケーションを選択して公開アプリケーションに接続します。

[名前]

接続マネージャのリストに表示する、ICA 接続エントリのタイトルを入力します。

[サーバー]

接続するサーバー名を設定します。Citrix サーバー名/公開アプリケーション名もしくは Citrix サーバーの IP アドレスを入力します。

サーバーまたは公開アプリケーションの一覧を表示して選択するには、[プロトコル]および[サーバーの場所/ポート]を設定後、[参照]ボタンをクリックします。サーバー名が一覧に表示される場合は、その一覧から接続先サーバーまたは公開アプリケーションを選択します。

3.3.1.2 [コネクション]タブ内の設定

[コネクション]タブ内では、ウィンドウの表示色数およびデータ圧縮、暗号化、SpeedScreen などを設定します。



以下の設定項目があります。

[データ圧縮]

データ圧縮を行うと、ICA セッションで転送されるデータ量を減らすことができます。接続の帯域幅に制限がある場合は、データ圧縮を使用するとパフォーマンスが向上します。

[色数]

ウィンドウの色数を設定します。

以下の値から選択します。(デフォルト: 24 ビット ※)

- ・4 ビット
- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット

※ デフォルトは、[グローバル ICA クライアントの設定]画面での操作により、変更することができます。

[SpeedScreen]

SpeedScreen を有効にすると、ユーザーによるキーボード入力やマウスクリックの結果が即座に反映されます。待ち時間が長く、画面の更新が遅い接続におけるパフォーマンスが向上します。

[暗号化レベル]

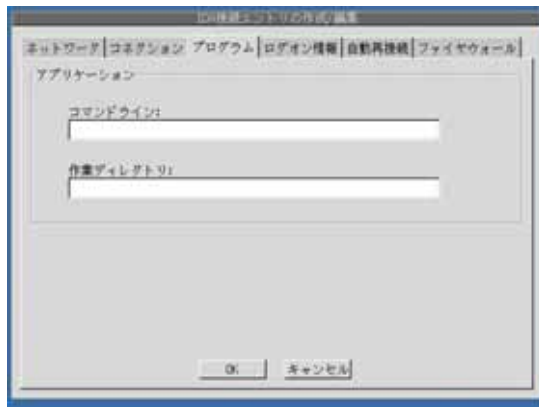
暗号化を有効にすると、ICAセッションのセキュリティレベルを強化できます。デフォルトでは、[基本]レベル(Basic)の暗号化が有効になっています。[基本]レベルよりも高度な暗号化を有効にするには、Citrix サーバーが ICA 暗号化をサポートしている必要があります。

以下の値から選択します。

- ・基本
- ・RC5(128 ビット、ログオンのみ)
- ・RC5(40 ビット)
- ・RC5(56 ビット)
- ・RC5(128 ビット)

3.3.1.3 [プログラム]タブ内の設定

[プログラム] タブ内は、ログオン時に特定のアプリケーションのみ起動する場合に設定します。



接続時にアプリケーションを起動したい場合は、必要な情報を [コマンドライン] および [作業ディレクトリ] テキストボックスに入力します。サーバーのデスクトップを表示するには、これらのテキストボックスを空のままにしておきます。

[コマンドライン]

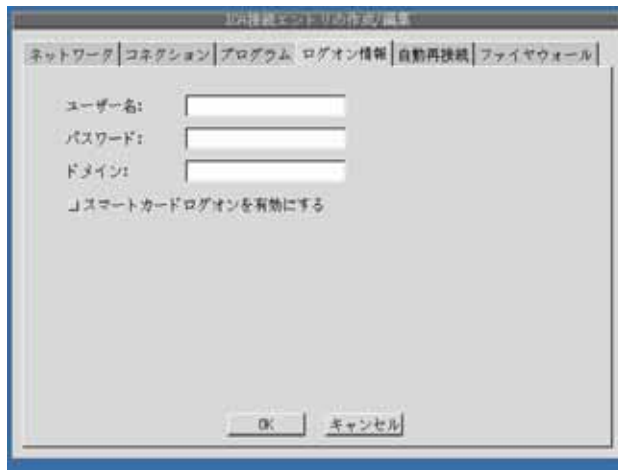
Citrix サーバーに接続したときに起動するアプリケーションのパスを指定します。

[作業ディレクトリ]

アプリケーションが使用する作業ディレクトリのパスを指定します。

3.3.1.4 [ログオン情報]タブ内の設定

[ログオン情報] タブ内は、ICA コネクション起動時に特定のユーザーで自動ログオンする場合に設定します。



必要に応じて、Citrix サーバーに接続するためのアカウント情報を指定できます。特定のユーザアカウントでのみサーバーにログオンする場合は、ここでアカウント情報を指定しておく、Citrix サーバーに接続するときのアカウント情報の入力が必要になります。

[ユーザー名]

Citrix サーバーに接続の際に自動ログオンするユーザーアカウント名を指定します。

[パスワード]

自動ログオンするユーザーアカウントに対応したパスワードを指定します。

[ドメイン]

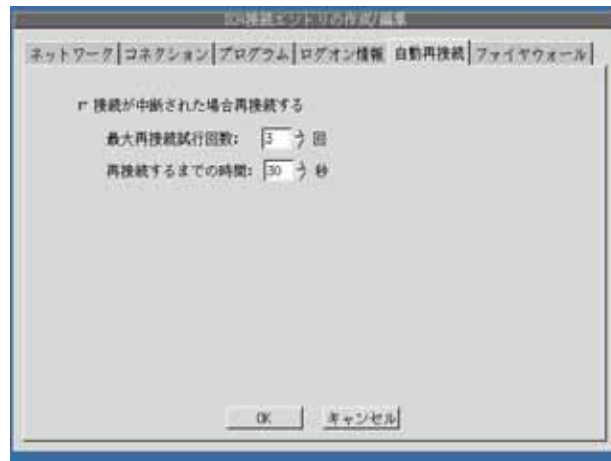
自動ログオンするユーザーアカウントが所属するドメイン名を指定します。

注 スマートカードを使用する場合は、[スマート カード ログオンを有効にする] チェックボックスを有効にしてください。

3.3.1.5 [自動再接続]タブ内の設定

[自動再接続] タブ内は、ICA コネクション実行中に、ネットワーク障害などで接続が中断された際、切断されたセッションに再接続を自動的に試行する場合に設定します。

自動再接続が有効であれば、ネットワークの信頼性が低い、通信速度が不安定などの理由により、ICA セッションが異常切断された場合に、自動的にサーバーへの再接続が試行されます。



以下の設定項目があります。

[接続が中断した場合再接続する]

自動再接続機能の有効/無効を切り替えます。デフォルトで、自動再接続機能は**有効**に設定されております。

[最大再接続試行回数]

自動再接続が有効な場合に、再接続を試みる回数を設定します。デフォルトは **3 回**です。

[再接続するまでの時間]

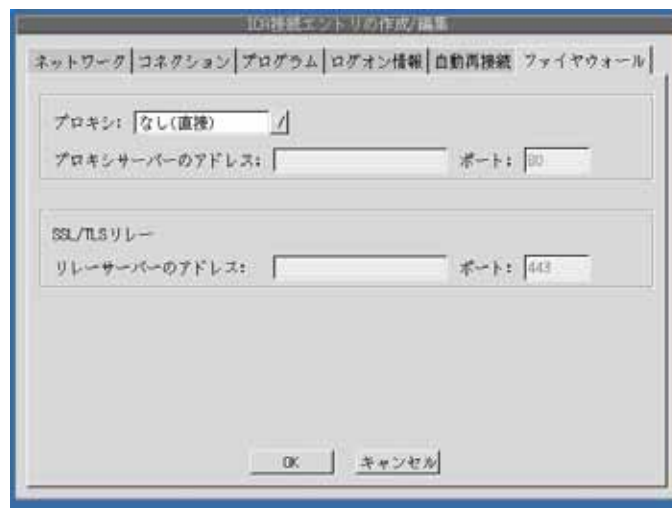
自動再接続が有効な場合に、エラーにより切断された ICA セッションを ICA クライアントが検出してから再接続を開始するまでの秒数を設定します。デフォルトは **30 秒**です。

3.3.1.6 [ファイヤウォール] タブ内の設定

[ファイヤウォール] タブ内は、ファイヤウォール内部の Citrix サーバーに対し、ファイヤウォール外部から ICA コネクションを行う場合に設定します。

弊社シンクライアント端末は、プロキシサーバー、ファイヤウォール、および SSL、TLS など、さまざまなセキュリティ技術で MetaFrame サーバーに ICA コネクションを実行することができます。

必要に応じて、SOCKS/Secure プロトコルサーバー、SSL/TLS Relay の設定を行います。



以下の設定項目があります。

[プロキシ]

Citrix サーバーに対して、SOCKS プロキシサーバーまたは Secure(HTTPS)サーバー経由で接続する際に設定します。(デフォルト: なし(直接))

[プロキシサーバーのアドレス/ポート]

SOCKS プロキシサーバーまたは Secure(HTTPS)サーバー経由で接続する際に、プロキシサーバーの IP アドレスおよびポート番号を設定します。

[リレーサーバーのアドレス/ポート]

SSL プロトコルまたは TLS プロトコル接続で、Secure Gateway for MetaFrame または Citrix SSL Relay を使用する際に、リレーサーバーの IP アドレスおよびポート番号を設定します。

([ネットワーク] タブ内の [プロトコル] 項目にて、SSL/TLS + HTTPS が選択された場合に設定を行います)

3.3.2 RDP 接続エントリー

ターミナルサービスがインストール、実行されているマイクロソフト社 Windows 2000 Server/Windows Server 2003 ベースのサーバーに接続を行う場合は、弊社シンクライアント端末の接続マネージャに、RDP 接続エントリー (ターミナルサーバー接続情報) を登録します。

RDP 接続エントリーを登録するには、接続マネージャで **[追加]** ボタンをクリックし、**[接続エントリーの種類]** 画面にて RDP を選択してください。



RDP 接続エントリーは、以下の情報を登録する必要があります。

- ・**全般**

接続サーバー情報、接続エントリー名を設定します。また、特定のユーザーで自動ログオンする場合に設定します。

- ・**画面**

画面の色数を設定します。

- ・**ローカルリソース**

ターミナルサーバーとの接続時に使用する、ローカルデバイスを設定します。

- ・**プログラム**

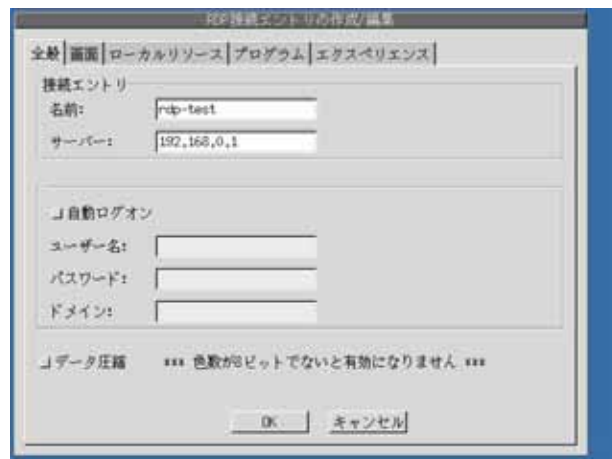
ログオン時に、特定のアプリケーションを起動する場合に設定します。

- ・**エクスペリエンス**

ターミナルサーバー接続後の接続パフォーマンスを最適化するための設定を行います。

3.3.2.1 [全般]タブ内の設定

[全般] タブ内では、ターミナルサーバーに接続する際の接続サーバー情報、接続エントリ名を設定します。



[名前]

接続マネージャのリストに表示する、ターミナルサーバー接続のタイトルを入力します。

[サーバー]

ターミナルサーバーの IP アドレス/DNS 名を入力します。

[自動ログオン]

ターミナルサーバーに接続したときに特定のユーザアカウントで自動ログオンする場合、有効にします。

[ユーザー名]

[自動ログオン]が有効な場合、ターミナルサーバーに接続したときに自動ログオンするユーザーアカウント名を指定します。

[パスワード]

[自動ログオン]が有効な場合、自動ログオンするユーザーアカウントに対応したパスワードを指定します。

[ドメイン]

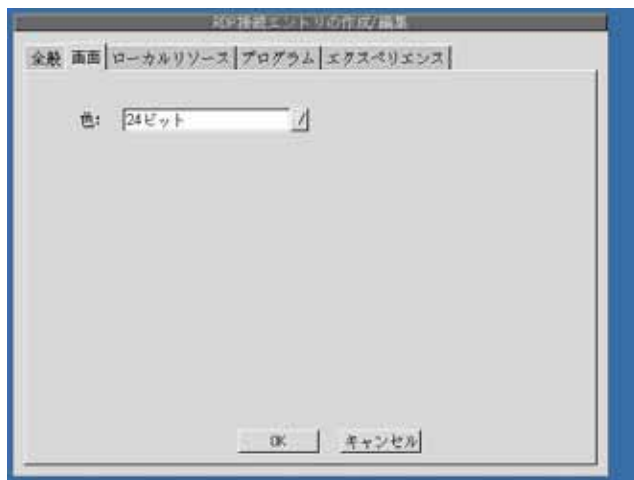
[自動ログオン]が有効な場合、自動ログオンするユーザーアカウントが所属するドメイン名を指定します。

[データ圧縮]

データ圧縮を行うと、RDP セッションで転送されるデータ量を減らすことができます。接続の帯域幅に制限がある場合、データ圧縮を使用するとパフォーマンスが向上します。

3.3.2.2 [画面]タブ内の設定

[画面] タブ内では、ターミナルサーバー接続の際に使用する画面の色数を設定します。



以下の設定項目があります。

[色]

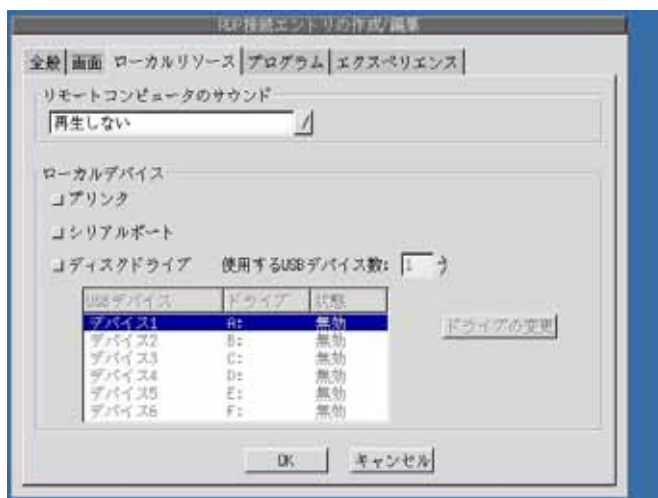
ウィンドウの色数を設定します。

以下の値から選択します。(デフォルト: 24 ビット)

- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット

3.3.2.3 [ローカルリソース]タブ内の設定

[ローカルリソース] タブ内では、ターミナルサーバーとの接続時に使用する、ローカルデバイスを設定します。



以下の設定項目があります。

[リモートコンピュータのサウンド]

RDP セッションでオーディオを再生する設定を行います。

以下の値から選択します。(デフォルト:再生しない)

- ・再生しない
- ・このコンピュータで聞く
- ・リモートコンピュータで再生する

[プリンタ]

プロパティシートで設定したローカルプリンタを RDP セッション内で使用する場合、有効にします。

(デフォルト: 無効)

[シリアルポート]

シリアルポートを RDP セッション内で使用する場合、有効にします。(デフォルト:無効)

[ディスクドライブ]

USB ポートに接続した記憶デバイスを RDP セッション内で使用する場合、有効にします。(デフォルト:無効)

[使用する USB デバイス数]

USB ポートに接続した記憶デバイスを RDP セッション内で使用する場合、使用する USB デバイス数を設定します。

[ドライブの変更] ボタン

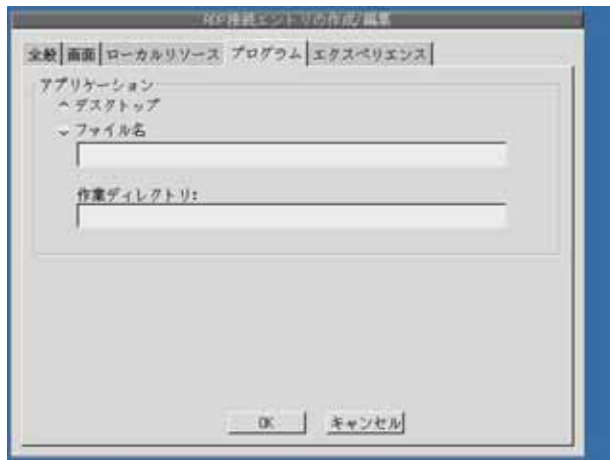
USB ポートに接続した記憶デバイスを RDP セッション内で使用する場合、使用する USB デバイスのドライブレターをデフォルトから変更する際に設定します。

RDP セッション内での USB ストレージの使用方法については、8.1 USB ストレージデバイスの利用 項をご参照ください。また、RDP セッション内でのローカルプリンタの使用方法については、

8.2 ローカルプリンタの利用 項をご参照ください。

3.3.2.4 [プログラム]タブ内の設定

[プログラム] タブ内では、ログオン時に特定のアプリケーションを起動する場合に設定します。



以下の設定項目があります。

[デスクトップ/ファイル名]

ターミナルサーバーに接続した際、デスクトップを表示する場合は、**[デスクトップ]** を選択します。

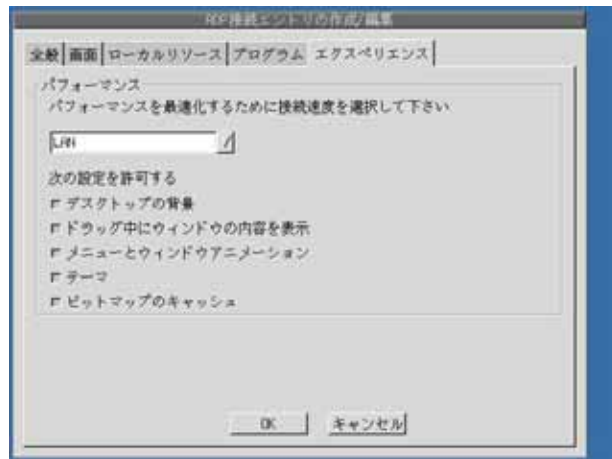
[ファイル名] を選択した場合、ターミナルサーバーに接続したときに起動するアプリケーションのパスを指定します。(デフォルト:**デスクトップ**)

[作業ディレクトリ]

ファイル名を指定した場合、アプリケーションが使用する作業ディレクトリのパスを指定します。

3.3.2.5 [エクスペリエンス]タブ内の設定

[エクスペリエンス] タブ内では、ターミナルサーバー接続後の接続パフォーマンスを最適化するための設定を行います。



以下の設定項目があります。

[パフォーマンス]

ターミナルサーバーに接続した際、接続パフォーマンスを最適化させるため、接続速度に合わせて、

[次の設定を許可する] 設定が構成されます。

以下の値から選択します。(デフォルト:LAN)

- ・LAN
- ・ブロードバンド
- ・モデム
- ・カスタム

[次の設定を許可する]

ターミナルサーバーに接続した際、一定の特性が RDP セッションで有効な場合、接続の確立時にその特性を受け入れると接続のパフォーマンスが向上します。

下記の特性が設定可能です。

- ・ デスクトップの背景
- ・ ドラッグ中にウィンドウの内容を表示
- ・ メニューとウィンドウアプリケーション
- ・ テーマ
- ・ ビットマップのキャッシュ

3.3.3 GO-Global サーバー接続情報の登録

GO-Global サーバーがインストールされている Windows ベースのサーバーに接続する場合は、GO-Global サーバー接続情報の新規登録・追加を行います。

GO-Global サーバー情報を登録するには、接続マネージャで **[追加]** ボタンをクリックし、**[接続エントリの種類]** 画面にて RXP を選択してください。



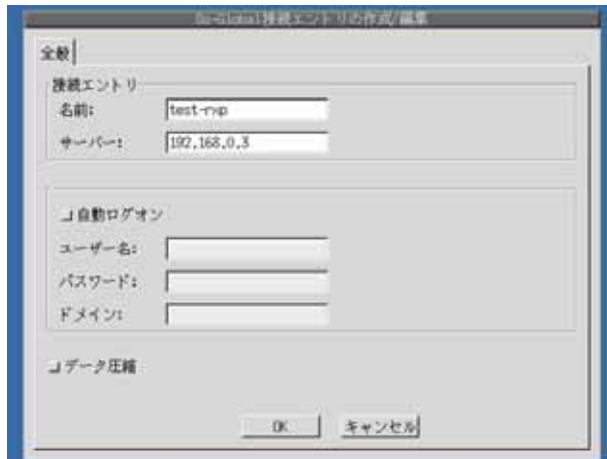
各 GO-Global サーバー接続情報毎に以下の情報を登録する必要があります。

・全般

接続サーバー情報、接続エントリ名を設定します。また、特定のユーザーで自動ログオンする場合に設定します。

3.3.3.1 [全般]タブ内の設定

[全般] タブ内では、接続サーバー情報、接続エントリ名を設定します。また、特定のユーザーで自動ログオンする場合に設定します。



以下の設定項目があります。

[名前]

接続マネージャのリストに表示する、RXP コネクションのタイトルを入力します。

[サーバー]

GO-Global サーバーの IP アドレスを入力します。

[自動ログオン]

GO-Global サーバーに接続したときに特定のユーザアカウントで自動ログオンする場合、有効にします。

[ユーザー名]

[自動ログオン]が有効なとき、GO-Global サーバーに接続したときに自動ログオンするユーザーアカウント名を指定します。

[パスワード]

[自動ログオン]が有効なとき、自動ログオンするユーザーアカウントに対応したパスワードを指定します。

[ドメイン]

[自動ログオン]が有効なとき、自動ログオンするユーザーアカウントが所属するドメイン名を指定します。

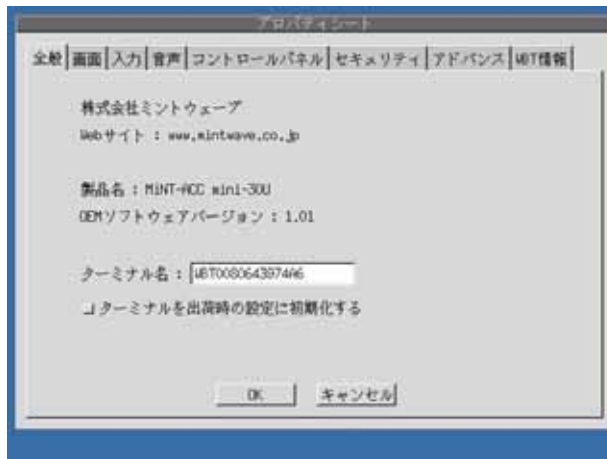
[データ圧縮]

データ圧縮を行うと、RXP セッションで転送されるデータ量を減らすことができます。接続の帯域幅に制限がある場合、データ圧縮を使用するとパフォーマンスが向上します。

4. プロパティシート

プロパティシートは、弊社シンクライアント端末の動作環境の設定や弊社シンクライアント端末に関する情報の参照などを行うためのユーティリティです。プロパティシートは、接続マネージャ画面が表示されている状態で、キーボードの F2 キーを押下することにより表示されます。

([ターミナルのパスワード]が有効に設定されている場合は、[F2]キー押下時にパスワードの入力が要求されます。プロパティシートを起動するには、適切なパスワードを入力してください)



4.1 ターミナルのプロパティ一覧

このユーティリティは、次に示すような多種の機能をサポートしています。

・全般

製品情報、ソフトウェアバージョン等の表示およびターミナル名の変更を行います。また、工場出荷時の端末設定への初期化もこの画面で行います。

・画面

画面解像度、リフレッシュレート、色数およびスクリーンセーバーを設定します。

・入力

マウススピードおよび、起動時のキーボード NumLock キーの有効化などを設定します。

・音声

端末のオーディオボリュームを調整します。

・コントロールパネル

端末に接続するプリンタ、ネットワーク設定、日付/時刻を設定します。

・セキュリティ

プロパティシートのパスワードおよび、ローカルログオンユーザの登録など、端末のセキュリティを設定します。

・アドバンス

グローバル ICA 設定を起動します。また、RDP/ICA/RXP セッションが終了した際の端末の自動シャットダウンを設定します。

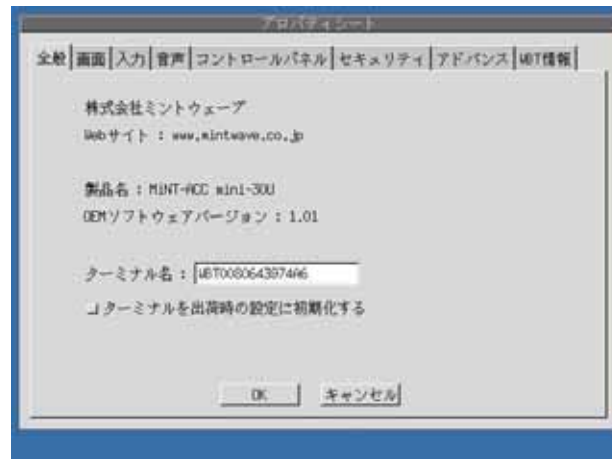
・WBT 情報

端末の CPU、メモリのスペックおよび IP アドレス情報を表示します。

4.2 プロパティシート設定項目および設定方法

4.2.1 [全般]タブ内の設定

ここでは弊社シンククライアント端末の製品情報の表示およびターミナル名の変更を行います。また、工場出荷時の端末設定に初期化することができます。



下記の設定項目および表示項目があります。

[製品情報]

以下の情報を表示します。

- ・ 社名
- ・ Web サイト
- ・ 製品名
- ・ OEM ソフトウェアのバージョン

[ターミナル名]

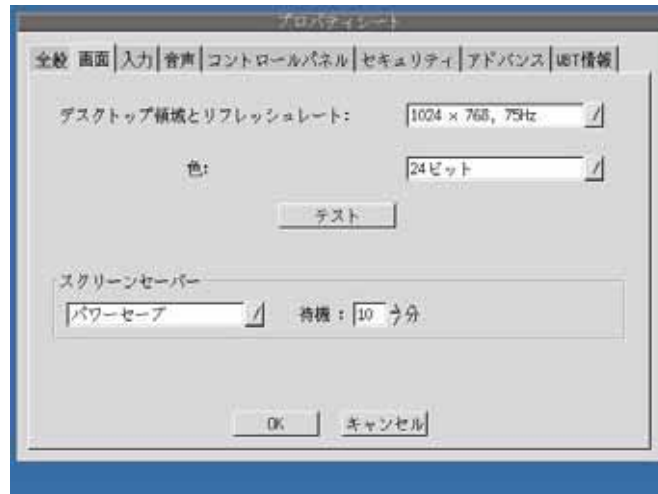
弊社シンククライアント端末のターミナル名を設定します。

[ターミナルを出荷時の設定に初期化する]

弊社シンククライアント端末の設定を初期化する場合にクリックします。ボタンをクリックし、再起動を行うと、端末設定が初期化され、セットアップウィザードが起動します。

4.2.2 [画面]タブ内の設定

[画面] タブ内では、表示画面の解像度、リフレッシュレート、色数およびスクリーンセーバーの設定を行います。



下記の設定項目および操作項目があります。

[デスクトップ領域とリフレッシュレート]

ご使用のディスプレイ装置に合わせて、解像度およびリフレッシュレートを設定します。変更する場合は、右側の▼をマウスでクリックして使用できる値を選択してください。以下の値から選択します。デフォルトでは、セットアップウィザードで設定した値が表示されます。

・640 x 480, 60Hz	・800 x 600, 75Hz	・1024 x 768, 75Hz
・640 x 480, 73Hz	・800 x 600, 85Hz	・1024 x 768, 85Hz
・640 x 480, 75Hz	・1024 x 768, 60Hz	・1280 x 1024, 60Hz
・800 x 600, 72Hz	・1024 x 768, 70Hz	・1280 x 1024, 75Hz

[色]

ディスプレイ画面の色数を設定します。右側の▼をマウスでクリックして使用する値をクリックしてください。以下の値から選択します。(デフォルト:24 ビット)

- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット

[テスト] ボタン

[デスクトップ領域とリフレッシュレート] および [色] で選択した設定が、ご使用のディスプレイ装置で正常に表示できるか、5秒間の表示テストを行います。

[スクリーンセーバー]

弊社シンクライアント端末に搭載されているスクリーンセーバー機能もしくはパワーセーブ機能を使用する場合に選択します。以下の値から選択します。

(デフォルト: **パワーセーブ**)

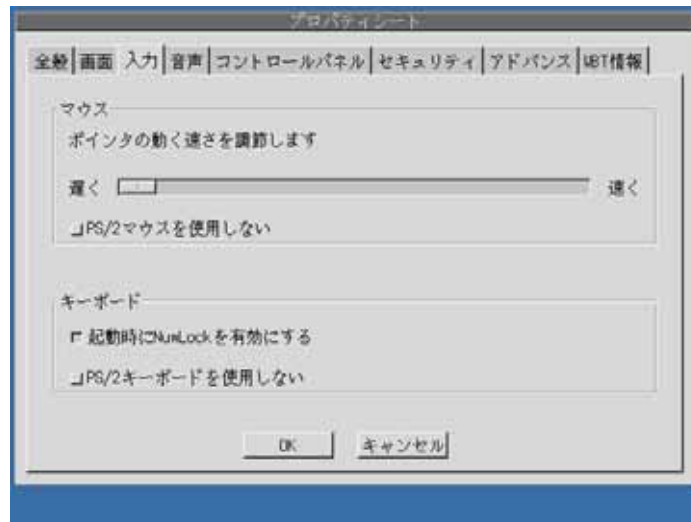
- ・なし
- ・スクリーンセーバー
- ・パワーセーブ

[待機]

スクリーンセーバー機能もしくはパワーセーブ機能を使用する場合、起動するまでの待機時間を分単位で設定します。(デフォルト: **10 分**)

4.2.3 [入力]タブ内の設定

[入力] タブ内では、マウススピードおよび、起動時のキーボード NumLock キーの有効化等を設定します。



下記の設定項目があります。

[マウス ポインタの動く早さを調節します]

スライダを左右にドラッグし、マウスポインタの移動速度を 5 段階で設定します。
(デフォルトでは、最も遅くなっています)

[PS/2 マウスを使用しない]

USB マウスを使用する場合、この設定を有効にすると、弊社シンクライアント端末の起動時間を短縮できます。(デフォルト:無効)

備考: 弊社がオプションで提供する USB マウス以外はサポートしていません。

[キーボード 起動時に NumLock を有効にする]

弊社シンクライアント端末起動時に、キーボード NumLock を有効にする場合に設定します。(デフォルト:有効)

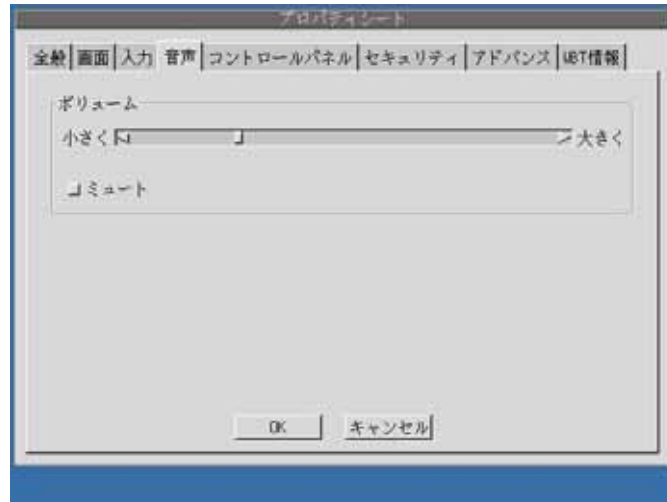
[PS/2 キーボードを使用しない]

USB キーボードを使用する場合、この設定を有効にすると、弊社シンクライアント端末の起動時間を短縮できます。(デフォルト:無効)

備考: 弊社がオプションで提供する USB キーボード以外はサポートしていません。

4.2.4 [音声]タブ内の設定

[音声] タブ内では、弊社シンクライアント端末から出力される音声のボリュームを調整します。



下記の設定項目があります。

[ボリューム]

スライダを左右にドラッグして弊社シンクライアント端末から出力されるシステムの音量を75段階で設定します。(デフォルト: 20/75)

[ミュート]

弊社シンクライアント端末から音声の出力を行わない場合に設定します。
(デフォルト: **無効**)

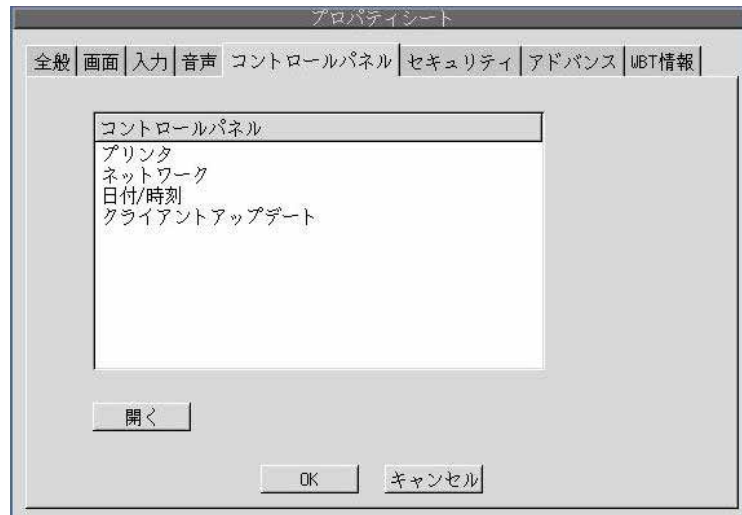
備考:

MiNT-ACC mini-30U は、内蔵スピーカーを搭載しておりません。

音声を出力させる場合は、MiNT-ACC mini-30U のオーディオ端子に外部スピーカを接続してください。

4.2.5 [コントロールパネル]タブ内の設定

[コントロールパネル] タブ内では、端末に接続するプリンタ、ネットワーク設定、日付/時刻を設定します。



下記の項目が設定できます。

[プリンタ]

弊社シンクライアント端末に直接接続するプリンタを設定します。
詳細な設定方法は、7.2.ローカルプリンタの利用 を参照してください。

[ネットワーク]

弊社シンクライアント端末のネットワーク設定 (IP アドレスなど) を行います。
設定方法は、セットアップウィザードのネットワーク設定と同じです。
詳細は、2.2.1. ネットワーク設定 を参照してください。

[日付/時刻]

弊社シンクライアント端末の日付/時刻を設定します。また、ネットワークタイムサーバーの設定を行います。
設定方法は、セットアップウィザードの日付/時刻設定と同じです。
詳細は、2.2.3. 現在時刻の設定 を参照してください。

[クライアントアップデート]

Go-Global クライアント等のクライアントモジュールのアップデートを行います。
詳細は、アップデート用モジュールと一緒に提供する手順書を参照してください。

4.2.6 [セキュリティ]タブ内の設定

[セキュリティ] タブ内では、プロパティシートのパスワードおよび、ローカルログオンユーザの登録など、端末のセキュリティを設定します。



以下の設定項目があります。

[ターミナル設定のパスワードを有効にする]

接続マネージャ画面でF2キーを押下することによりプロパティシート画面を表示させる際、パスワードを要求するように設定します。

[構成タブを表示しない]

端末利用者に、接続エントリの設定 (追加/編集/削除/スタートアップ) を操作されないために、接続マネージャ画面の表示の際に [構成] タブを表示しないように設定します。

[ローカルログオンを有効にする]

端末起動の際に、[ユーザー名] および [パスワード] を要求する、ユーザー認証機能を有効にします。

登録されたユーザは、グループ (管理者/ユーザー) の2段階で、表示および操作の権限を設定することができます。

- ・ **リストボックス:** 設定されたアカウントをリストアップします。各リストには、ユーザー名、グループ (セキュリティの権限レベル) が表示されます。
- ・ **追加、編集、削除:** [ユーザーアカウント] ダイアログボックスを開き、ユーザーアカウントを追加、修正または削除します。

セキュリティ機能の設定方法については、6. **セキュリティの設定** を参照してください。

4.2.7 [アドバンス]タブ内の設定

[アドバンス] タブ内では、グローバル ICA 設定の起動および、RDP/ICA/RXP セッションが終了した際の端末の自動シャットダウンを設定します。



下記の項目が設定できます。

[グローバル ICA クライアントの設定] ボタン

弊社シンクライアント端末上のすべての ICA 接続に適用される設定を変更します。

[グローバル ICA クライアントの設定] ボタンで設定できる項目およびその方法については、

5. **グローバル ICA クライアントの設定** を参照してください。

[セッション終了時のシャットダウン設定]

弊社シンクライアント端末から起動した RDP、ICA、RXP 各セッションがすべて終了した場合、自動的に端末の電源をシャットダウンするかを指定します。以下の値から選択します。

(デフォルト: **指定なし**)

・指定なし

サーバーとの接続が終了した際に、接続マネージャ画面に戻ります。

・確認ダイアログ表示

サーバーとの接続が終了した際に、端末をシャットダウンするかを問い合わせるダイアログボックスを表示します。

・自動シャットダウン

サーバーとの接続が終了した際に、端末をシャットダウンします。

4.2.8 [WBT 情報]タブ内の設定

[WBT 情報] タブ内では、弊社シンクライアント端末のシステム情報 (CPU、メモリ) およびネットワーク情報 (MAC アドレス、IP アドレス) を表示します。



下記の項目が表示できます。

[システム情報]

以下の情報を表示します。

- CPU
- メモリ

[TCP/IP 情報]

有効に設定されたネットワークインターフェースについて、以下の情報を表示します。

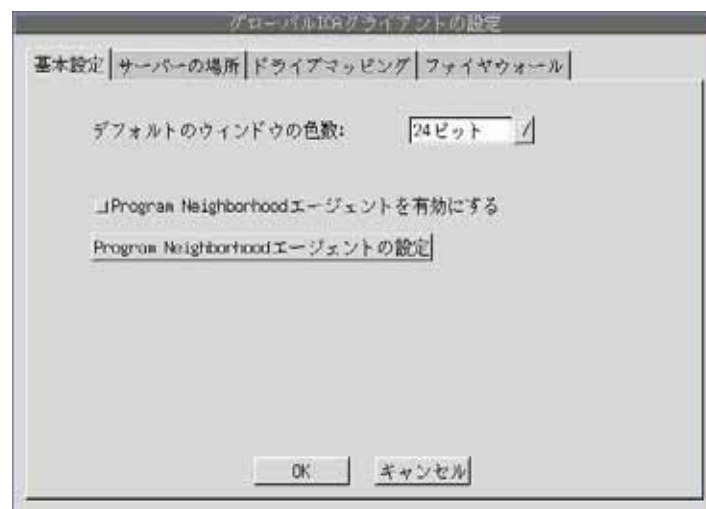
- MAC アドレス
- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ
- プライマリ DNS
- セカンダリ DNS

5. グローバル ICA クライアントの設定

すべての ICA エントリに適用される設定値や新しい ICA エントリを作成するときに適用されるデフォルト値の設定方法を説明します。

[グローバル ICA クライアントの設定]画面を表示するには、

1. 接続マネージャ画面で F2 キーを押下して、プロパティシートを実行します。
2. プロパティシートの[アドバンス]タブをクリックして開き、[グローバル ICA クライアントの設定] ボタンをクリックすると、以下のような[グローバル ICA クライアントの設定] ダイアログボックスが開きます。



[グローバル ICA クライアントの設定] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

・基本設定

新しいエントリに対応する [デフォルトのウィンドウの色数] 設定を指定します。また、このタブで、Program Neighborhood エージェントを有効にしてその設定を変更できます。

・サーバーの場所

新規に設定する ICA 接続エントリのデフォルトの ICA ブラウズプロトコルとサーバーの場所を設定できます。

・ドライブマッピング

Citrix サーバーに接続した際にマッピングを行う USB 記憶デバイスのデバイス数およびドライブレターを設定します。

・ファイヤウォール

新しいエントリのデフォルトの SOCKS または Secure プロキシ、代替アドレスのリマップ、および Citrix SSL/TLS Relay に関する設定を行います。

5.1 [基本設定] タブ内の設定

[基本設定] タブ内では、新しいエントリに対応する [デフォルトのウィンドウの色数] 設定を指定します。また、Program Neighborhood エージェントを有効にして設定できます。



[基本設定] タブでは、次の項目を設定できます。

[デフォルトのウィンドウの色数]

ICA 接続エントリを新規作成するときにデフォルトで選択されるウィンドウの色数を選択します。

以下の値から選択できます。(デフォルト:24 ビット)

- ・4 ビット
- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット

[Program Neighborhood エージェントを有効にする]

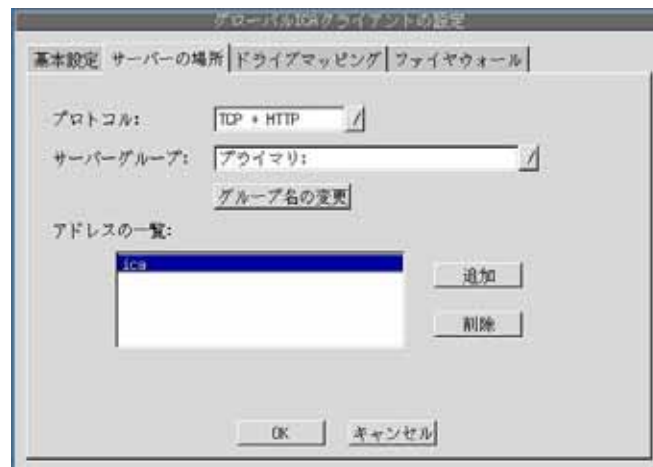
Program Neighborhood エージェントを有効にします。

[Program Neighborhood エージェントの設定] ボタン

Program Neighborhood エージェントが有効な場合に、接続する Web Interface サーバーの URL を設定します。

5.2 [サーバーの場所] タブ内の設定

[サーバーの場所] タブ内では、新規に設定する ICA 接続エントリのデフォルトの ICA ブラウズプロトコルとサーバーの場所を設定できます。



[サーバーの場所] タブでは、下記の設定項目があります。

[プロトコル]

ICA 接続エントリを新規作成するときにデフォルトで選択される、ICA ブラウズに使用するプロトコルを設定します。以下の値から選択できます。(デフォルト:TCP + HTTP)

- ・TCP + HTTP
- ・TCP
- ・SSL/TLS + HTTPS

[サーバーグループ]

[サーバーの場所] 画面上でサーバードレスの追加/削除を行うサーバーグループを選択します。以下の値から選択できます。(デフォルト:プライマリ)

- ・プライマリ
- ・バックアップ 1
- ・バックアップ 2

[グループ名の変更] ボタン

[サーバーグループ] で選択されたサーバーグループ名を変更します。入力した名前は、それぞれ [プライマリ]、[バックアップ1]、[バックアップ2] の後に追加されます。

[追加] ボタン

[サーバーグループ] で選択されたサーバーグループのアドレス一覧に、サーバーを追加します。

[削除] ボタン

[サーバーグループ] で選択されたサーバーグループのアドレス一覧からサーバーを削除します。

●新しいエントリのデフォルトの「サーバーの場所」を変更するには

1. ダイアログボックス上部にある一覧から、必要なプロトコルを選択します。
2. **[サーバーグループ]** の一覧から、設定するサーバーグループを選択します。**[プライマリ]**、**[バックアップ1]**、**[バックアップ2]** を選択できます。
3. **[追加]** ボタンをクリックします。**[サーバーのアドレスの追加]** ダイアログボックスが開きます。
4. 選択したグループに追加する Citrix サーバーのアドレスを入力します。
TCP+HTTP または SSL/TLS+HTTPS プロトコルを選択した場合、サーバーのアドレスとポート番号を入力する必要があります。
5. **[OK]** ボタンをクリックして変更を保存します。**[グローバル ICA クライアントの設定]** ダイアログが終了します。

注: **[グループ名の変更]** ボタンをクリックしてサーバーグループ名を変更することもできます。入力した名前は、それぞれ **[プライマリ]**、**[バックアップ1]**、**[バックアップ2]** の後に追加されます。

5.3 [ドライブマッピング] タブ内の設定

[ドライブマッピング] タブ内では、Citrix サーバーに接続した際にマッピングを行う USB ストレージデバイスのデバイス数およびドライブレターを設定します。



下記の設定項目があります。

[ディスクドライブ]

USB ポートに接続したストレージデバイスを ICA セッション内で使用する場合、有効にします。

[使用する USB デバイス数]

USB ポートに接続したストレージデバイスを ICA セッション内で使用する場合、使用する USB デバイス数を設定します。

[ドライブの変更] ボタン

USB ポートに接続した記憶デバイスを ICA セッション内で使用する場合、使用する USB デバイスのドライブレターをデフォルトから変更する際に設定します。

ICA セッション内での USB ストレージの使用方法については、7.1 USB ストレージデバイスの利用 項をご参照ください。

5.4 [ファイヤウォール] タブ内の設定

[ファイヤウォール] タブでは、新しい ICA エントリを作成するときに適用される SOCKS または Secure プロトコルサーバー、SSL/TLS Relay の設定を行います。



下記の設定項目があります。

[プロキシ]

プロキシサーバーを使用しているネットワークで、ファイヤウォールの内側にある Citrix サーバーに接続する場合に選択します。以下の値から選択できます。

(デフォルト:なし)

- ・なし
- ・SOCKS
- ・HTTPS

[プロキシサーバーのアドレス/ポート]

[プロキシ] 設定で SOCKS または HTTPS が選択された場合、プロキシサーバーのアドレスおよびポート番号を設定します。

[SSL/TLS リレーサーバーのアドレス/ポート]

[サーバーの場所] タブ内の [プロトコル] にて、SSL/TLS + HTTPS が選択された場合、SSL/TLS リレーサーバーのアドレスおよびポート番号を設定します。

[ファイヤウォールを介した接続で代替アドレスを使用する]

ネットワークアドレス変換を行うファイヤウォールのため、Citrix サーバーのマスタブラウザが代替アドレスを返すように構成されている場合は、有効にします。

●新しいエントリのデフォルトの「SOCKS プロキシサーバー」を設定するには

1. [プロキシ] の一覧から [SOCKS] を選択します。
2. [プロキシのアドレス] ボックスに SOCKS プロキシサーバーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN: Fully Qualified Domain Name) を入力します。
3. [ポート] にプロキシサーバーのポート番号を入力します。
4. [OK] ボタンをクリックします。

これにより、新しく作成する ICA エントリでは、指定した SOCKS プロキシサーバーがデフォルトで使用されます。

注: SOCKS は、UDP ブラウズでは実行できません。

●新しいエントリのデフォルトの「Secure プロキシサーバー」を設定するには

1. [プロキシ] の一覧から [Secure (HTTPS)] を選択します。
2. [プロキシのアドレス] ボックスに Secure プロキシサーバーの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。これらの情報が不明な場合は、システム管理者に確認してください。
3. [ポート] にプロキシサーバーのポート番号を入力します。
注: 図では、ポートに「1080」が指定されていますが、実際に使用しているポート番号を指定する必要があります。ポート番号が不明な場合は、システム管理者に確認してください。
4. Citrix SSL/TLS Relay を有効にするには、[SSL/TLS Relay] の [アドレス] にアドレスを、[ポート] にポート番号を入力します。これらの情報が不明な場合は、システム管理者に確認してください。
5. [OK] ボタンをクリックします。

重要:

デフォルトの Secure プロキシサーバーを設定する場合は、接続する Citrix サーバーまたは公開アプリケーションに対して1つ以上のサーバーを [サーバーの場所] タブで指定する必要があります。これにより、新しく作成する ICA エントリでは、指定した Secure プロキシサーバーがデフォルトで使用されます。

●新しいエントリにて「代替アドレス使用」をデフォルトで有効にするには

1. [ファイアウォールを介した接続で代替アドレスを使用する] チェックボックスを有効にします。
2. [OK] ボタンをクリックします。

6. セキュリティ機能

弊社シンクライアント端末は、管理者以外の方が不正に端末設定情報を変更することを防止するために、様々なセキュリティ機能を搭載しています。

6.1 端末セキュリティ機能の種類

弊社シンクライアント端末に搭載しているセキュリティ機能は次の通りです。

- **ターミナル設定のパスワード**---- 6.2.ターミナル設定のパスワードを参照
プロパティシート起動時 (ターミナル接続マネージャ画面で [F2] キーを押した時) にパスワード入力を促すことにより、プロパティシートの設定を保護します。
- **接続マネージャ [構成] タブの非表示化**---- 6.3 接続マネージャ [構成] タブの非表示化 を参照
接続マネージャの [構成] タブを表示しないようにすることで、端末利用者が接続エントリの設定操作 (追加/編集/削除/スタートアップ) を実施することを防止します。
- **ユーザー認証機能**---- 6.4 ユーザ認証機能を参照
端末利用開始前にユーザー認証を実施することにより、管理者以外の方が不正に端末設定情報を変更することを防止する機能です。
- **IEEE802.1x 認証機能**---- 6.5 IEEE802.1x 認証機能を参照
IEEE802.1x は、LAN スイッチや無線 LAN のアクセスポイントで端末を認証してから LAN に接続するための技術です。弊社シンクライアント端末では、有線・無線ともに IEEE802.1x 認証に対応しています。

6.2 ターミナル設定のパスワード

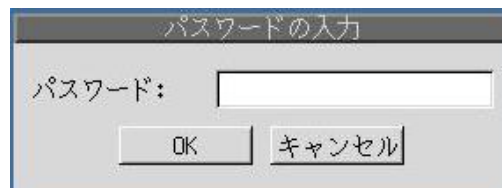
プロパティシートの [セキュリティ] タブ内で、[ターミナル設定のパスワードを有効にする] チェックボックスを有効にすると、接続マネージャ画面からプロパティシート画面を表示させる際に、パスワードを要求するように設定されます。

設定方法:

1. 接続マネージャ画面で F2 キーを押下し、プロパティシートを起動します。

注意:

セットアップウィザードで [ターミナル設定のパスワード] を有効にしパスワードを設定した場合は、次のようなパスワードの入力を促すダイアログが表示されます。



このダイアログが表示された場合は、既に本機能は設定されておりますので、パスワードを変更したり設定を解除したりする以外は操作を行う必要はありません。

2. プロパティシートの [セキュリティ] タブをクリックして開きます。

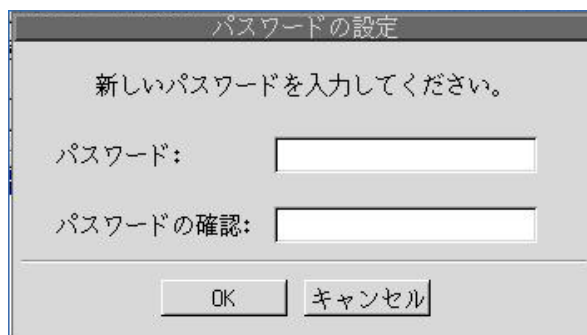


3. 「ターミナル設定のパスワードを有効にする」チェックボックスを有効にします。

備考:

本機能を無効にする場合は、このチェックボックスを無効にしてください。

4. 次に示すような「パスワードの設定」ダイアログが表示されるので、パスワードを設定します。

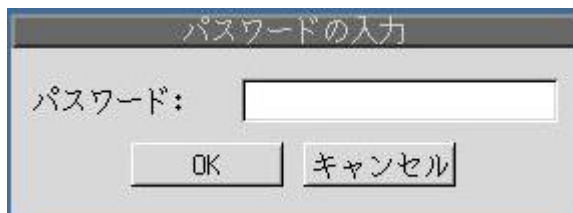


備考:

既に設定されているパスワードを変更する場合は、ここで新しいパスワードを設定します。

5. 設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックし、設定内容を保存します。

次回ターミナルプロパティ起動時（接続マネージャ画面で [F2] キーを押した時）から以下のようなダイアログが表示されます。



6.3 接続マネージャ [構成] タブの非表示化

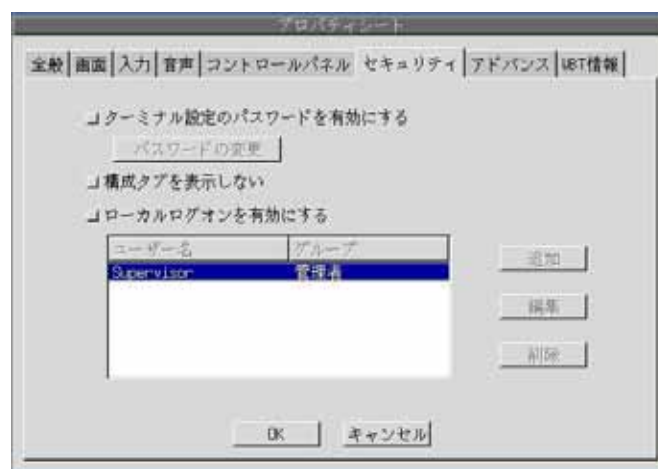
端末利用者に、接続エントリの設定 (追加/編集/削除/スタートアップ) を操作されないために、接続マネージャの表示の際に [構成] タブを表示しないように設定します。

注意:

本機能は、接続マネージャでの接続先サーバの登録作業が終了した後、有効にするようにしてください。

設定方法:

1. 接続マネージャ画面で F2 キーを押下し、プロパティシートを起動します。
2. プロパティシートの[セキュリティ]タブをクリックして開きます。

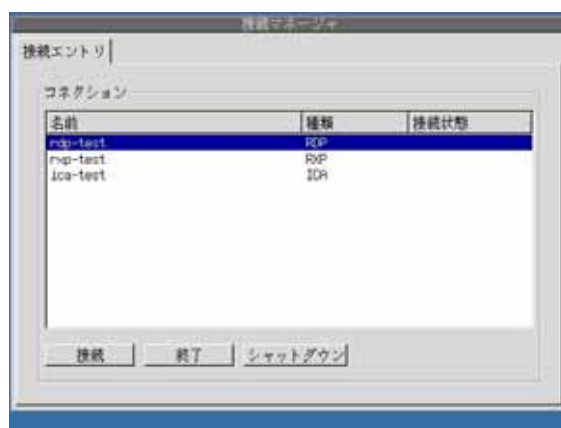


3. 「構成タブを表示しない」チェックボックスを有効にします。

備考:

本機能を無効にする場合は、このチェックボックスを無効にしてください。

次回接続マネージャ表示時より、以下のように [構成] タブが非表示となります。



6.4 ユーザー認証機能

本機能は、端末利用開始前にユーザー認証を実施することにより、管理者以外の方が不正に端末設定情報を変更することを防止する機能です。

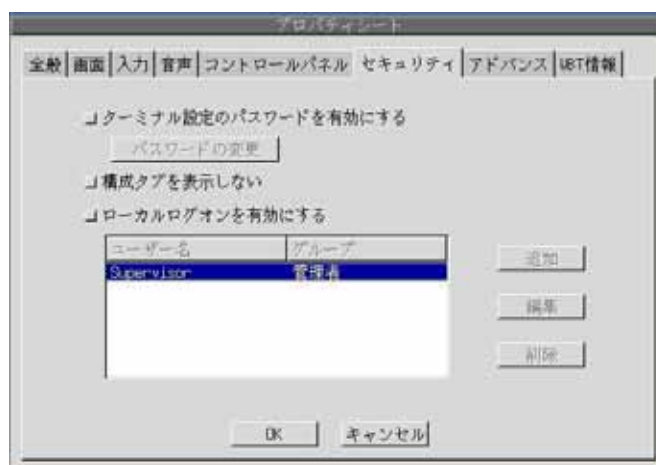
ユーザーアカウントは、デフォルトでは、管理者権限を持つ supervisor (パスワード:なし) が存在します。ユーザーの追加については、設定方法をご覧ください。

注意:

supervisor アカウントのパスワードは、後述の「パスワードの変更」を参照し、事前に変更するようにしてください。また、supervisor アカウントは、削除することはできません。

ユーザー認証機能 設定方法:

1. 接続マネージャ画面で F2 キーを押下し、プロパティシートを起動します。
2. プロパティシートの[セキュリティ]タブをクリックして開きます。



3. [ローカルログオンを有効にする] を有効にします。

注意:

本項目が無効の場合は、ユーザーアカウントを設定してもユーザー認証機能を利用することはできません。

4. **[追加]** ボタンをクリックします。

5. **[ユーザーの設定]** ダイアログが起動するので、次の項目を設定します。
すべて設定し終わったら **[OK]** ボタンをクリックします。

- ユーザー名
- パスワード (パスワードの確認入力)
- グループ



備考: 各グループ権限による違い

各グループ権限で表示/設定および実行可能な項目は、下表のように異なります。

	項目	管理者	ユーザー
接続マネージャ	[接続エントリ]タブ	表示・実行可	表示・実行可
	[構成]タブ	表示・設定可	-
プロパティシート	[全般]タブ	表示・設定可	表示可
	[画面]タブ	表示・設定可	表示・設定可
	[入力]タブ	表示・設定可	表示・設定可
	[音声]タブ	表示・設定可	表示・設定可
	[コントロールパネル]タブ	表示・設定可	-
	[セキュリティ]タブ	表示・設定可	-
	[アドバンス]タブ	表示・設定可	-
	[WBT 情報]	表示・実行可	-

6. プロパティシートに戻ります。追加したユーザーアカウントが **[セキュリティ]** タブ内のリストに表示されます。 **[OK]** ボタンをクリックしてプロパティシートを終了します。



ユーザー認証機能 有効時の流れ:

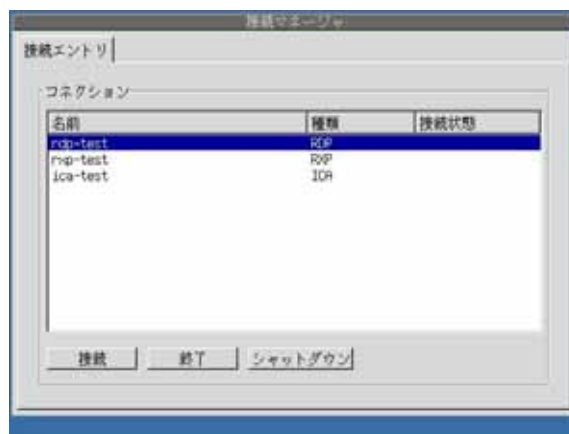
弊社シンククライアント端末の電源を投入します。

スターティングアップ処理後、**[ログオン]** ダイアログが表示されます。



ユーザー名と**パスワード**を入力し、**[OK]** ボタンをクリックします。

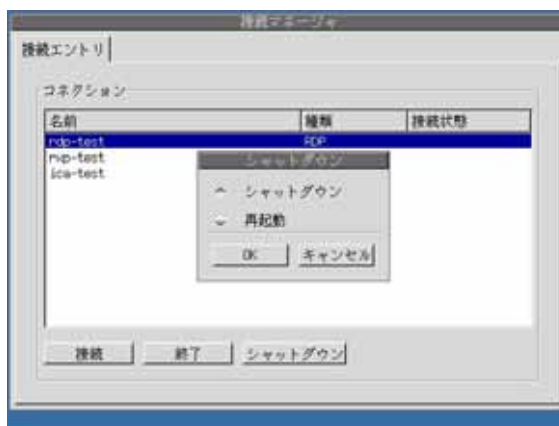
入力したアカウント情報で端末にログインし、アカウント権限に対応した画面が表示されます。



別のアカウントでログインしたいときは、端末を再起動します。

接続マネージャの**[シャットダウン]** ボタンをクリックし、**[シャットダウン]** ダイアログを起動します。

ダイアログ内の**[再起動]** を選択して**[OK]** ボタンをクリックします。再起動処理が開始されます。

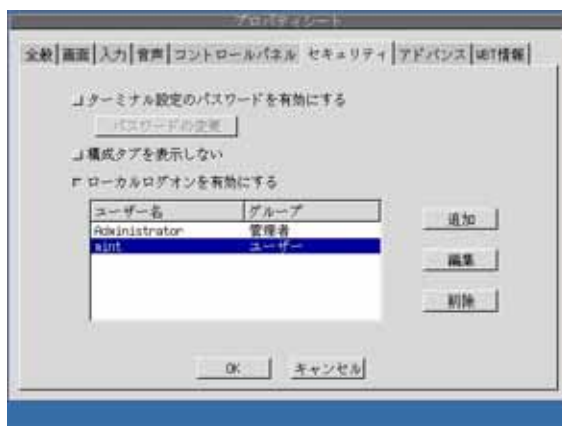


再起動完了後、**[ログオン]** ダイアログが表示されます。2. を実施してください。

ユーザー認証機能 パスワード設定方法:

注意: 本操作は、管理者権限を持つユーザーでログインしてから行ってください。

1. プロパティシート内の [セキュリティ] タブをクリックします。
2. パスワードを変更するユーザーをユーザーアカウントのリストから選択し、[編集] ボタンをクリックします。



3. [ユーザーの設定] ダイアログが起動するので、新しいパスワードを入力し [OK] ボタンをクリックして [ユーザーの設定] ダイアログを閉じます。



4. プロパティシートに戻るので、特に設定する項目がなければ [OK] ボタンをクリックし、プロパティシートを終了します。

これ以降、新しいパスワードでのログインが可能となります。

6.5 IEEE802.1x 認証機能

IEEE802.1x は、LAN スイッチや無線 LAN のアクセスポイントで端末を認証してから LAN に接続するための技術です。弊社シンクライアント端末では、有線・無線ともに IEEE802.1x 認証に対応しています。

設定方法：

1. 接続マネージャ画面で F2 キーを押下し、プロパティシートを起動します。
2. プロパティシートの[コントロールパネル]タブをクリックし、[ネットワーク]を選択して [開く] をクリックします。
3. 設定するネットワークインターフェースを選択し、[設定] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されるので、[802.1x 認証] タブをクリックします。



4. 次の画面に切り替わるので、[802.1x 認証を有効にする] チェックボックスを有効にし、[認証方法] プルダウンで認証方式を選択します。
認証方式選択後は、[設定] ボタンをクリックし、認証に使う情報を設定してください。



5. 設定後は、[OK] ボタンをクリックして、設定内容を保存してください。

7. 周辺機器の接続

弊社シンクライアント端末からサーバーに対して ICA/RDP コネクションを行うと、弊社シンクライアント端末に接続された、USB メモリなどの USB ストレージデバイスやプリンタを使用することができます。

7.1 USB ストレージデバイスの利用

弊社シンクライアント端末では、本体に USB ストレージデバイスを取り付け利用することが可能です。

備考:

- USB ストレージデバイスを利用する場合は、サーバー側をクライアントドライブの利用を許可する設定にしておいてください。
- RXP(GO-Global)セッションでは、シンクライアント端末に取り付けた USB ストレージデバイスの利用はサポートしておりません。

USB ストレージデバイスの取り扱い時の注意

- － **取り付け時**
指定された USB ストレージデバイスのみ動作可能です。
- － **取り外し時**
動作中の取り外しは、機器の故障やデータの損失の可能性があります。必ず、ターミナルサーバーおよび Citrix サーバーからログオフをした後に行ってください。
- － **使用時**
また、指定されていない USB 機器は接続しないで下さい。
- － **その他**
端末本体の電源を切る場合は、ターミナルサーバーおよび Citrix サーバーからログオフしてから行って下さい。

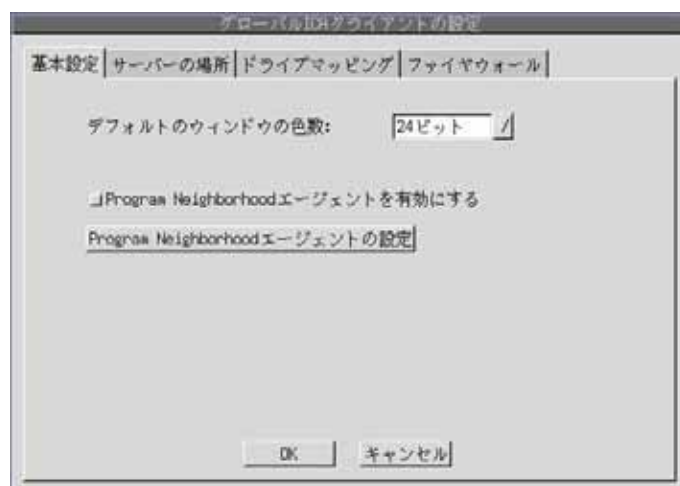
ストレージデバイス内のディスクを取り扱う際の注意

- － **シンクライアント端末電源投入時の注意**
ストレージデバイス内に、フロッピーディスク等のディスクをセットした状態で電源を入れると、ディスクの内容が破壊される恐れがあります。必ず、端末の電源を入れた後でディスクをセットしてください。
- － **ストレージデバイス内のディスク取り出し時の注意**
ストレージデバイス内のディスクを取り出すときは必ず緑のランプ (アクセス表示用 LED) が消灯していることを確認してから取り出してください。LED 点灯中に取り出すとディスクの内容が破壊されることがあります。
- － **シンクライアント端末電源 OFF 時の注意**
ストレージデバイス内のディスクをセットした状態で電源を切ると、ディスクの内容が破壊される恐れがあります。必ず、端末の電源を切る前にディスクを取り出してください。

●ICA 接続時に端末本体に接続した USB ストレージを使うには

端末側の準備:

1. シンクライアント端末の電源が OFF になっているのを確認してから、弊社シンクライアント端末 に USB ストレージデバイスを取り付けます。
2. シンクライアント端末の電源を入れます。
接続マネージャが表示されたら F2 キーを押下して、プロパティシートを実行します。
3. プロパティシートの[アドバンス]タブをクリックして開き、[グローバル ICA クライアントの設定] ボタンをクリックすると、以下のような[グローバル ICA クライアントの設定] ダイアログボックスが開きます。



4. [ドライブマッピング] タブをクリックします。次の画面が表示されます。
まず、[ディスクドライブ] 項目を有効にします。
次に、端末本体に繋いだ USB ストレージの数に応じて [使用する USB デバイス数] を設定します。
USB ストレージをマッピングするドライブレターがサーバーのドライブと一緒にいる場合は、[ドライブの変更] ボタンをクリックし、マッピングするドライブレターを変更してください。



5. [OK] ボタンをクリックして設定を保存したら、Citrix サーバーに接続します。

USB ストレージデバイスの内容を表示する：

1. 接続した Citrix セッション内で、エクスプローラを開きます。
2. 「USB ストレージデバイスをマッピングしたドライブ」をクリックし、内容を表示します。

補足：USB ストレージデバイスの場所は、次のようになります。

ドライブマッピングで指定したドライブレター : ネットワークドライブ

USB ストレージデバイス内のファイルやフォルダをサーバーにコピーする：

1. エクスプローラを開きます。
2. 「USB ストレージデバイスをマッピングしたドライブ」をクリックして内容を表示し、コピーするファイルおよびフォルダをクリックします。
3. コピー先を表示し、コピーするファイルまたはフォルダをドラッグします。

USB ストレージデバイス内にファイルやフォルダをコピーする

1. エクスプローラを開きます。
2. コピーするファイルまたはフォルダをクリックします。
3. コピーするファイルおよびフォルダを「USB ストレージデバイスをマッピングしたドライブ」へドラッグします。

●RDP 接続時に端末本体に接続した USB ストレージを使うには

注意: Windows 2000 Server/Advanced Server に RDP 接続した場合は、USB ストレージデバイスを使用することはできません。

端末側の準備:

1. シンククライアント端末の電源が OFF になっているのを確認してから、弊社シンククライアント端末 に USB ストレージデバイスを取り付けます。
2. シンククライアント端末の電源を入れます。

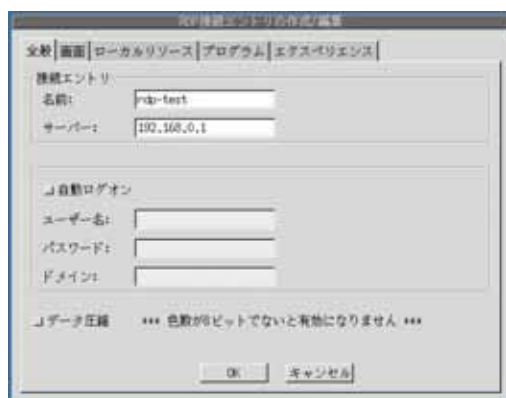
接続マネージャが表示されたら **[構成]** タブをクリックして、画面表示を切り替えます。



3. 端末に取り付けた USB ストレージデバイスを利用したい接続先 (RDP エントリ) をクリックして選択し、ダブルクリックもしくは、**[編集]** ボタンをクリックします。



4. 選択したエントリの編集画面が表示されます。

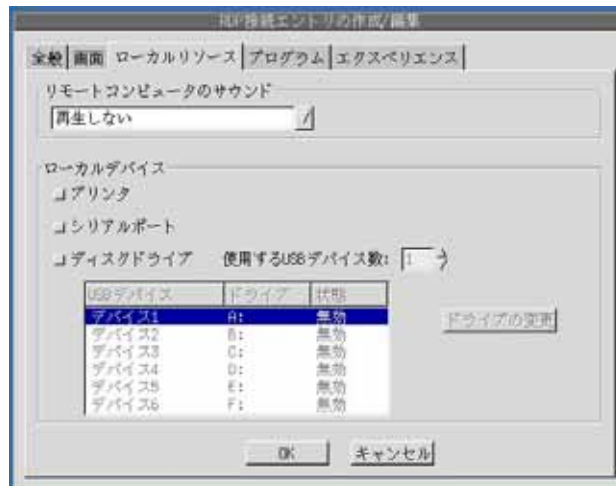


5. **[ローカルリソース]** タブをクリックします。次の画面が表示されます。

まず、**[ディスクドライブ]** 項目を有効にします。

次に、端末本体に繋いだ USB ストレージの数に応じて **[使用する USB デバイス数]** を設定します。

USB ストレージをマッピングするドライブレターがサーバーのドライブと一緒にいる場合は、**[ドライブの変更]** ボタンをクリックし、マッピングするドライブレターを変更してください。



6. **[OK]** ボタンをクリックして設定を保存したら、ターミナルサーバーに接続します。

USB ストレージデバイスの内容を表示する：

1. 接続した Citrix セッション内で、エクスプローラを開きます。
2. 「USB ストレージデバイスをマッピングしたドライブ」をクリックし、内容を表示します。

補足：USB ストレージデバイスの場所は、次のようになります。

ローカルリソースで指定したドライブレター：ネットワークドライブ

USB ストレージデバイス内のファイルやフォルダをサーバーにコピーする：

1. エクスプローラを開きます。
2. 「USB ストレージデバイスをマッピングしたドライブ」をクリックして内容を表示し、コピーするファイルおよびフォルダをクリックします。
3. コピー先を表示し、コピーするファイルまたはフォルダをドラッグします。

USB ストレージデバイス内にファイルやフォルダをコピーする

1. エクスプローラを開きます。
2. コピーするファイルまたはフォルダをクリックします。
3. コピーするファイルおよびフォルダを「USB ストレージデバイスをマッピングしたドライブ」へドラッグします。

USB ストレージデバイスについての注意事項

以下に記述する注意事項がありますので、使用の際はご注意ください。

[RDP/ICA 共通の注意事項]

FD について

1. フォーマットを行うことはできません。
2. 使用可能なディスクは、次のタイプの DOS フォーマットされたものに限られます。
- 2HD・・・・・・1.44MByte
3. ディスク内に新規作成したファイル・フォルダの作成日時は、コントロールパネル内 **[日付と時刻]** で設定されている日時となります。
コントロールパネル内 **[日付と時刻]** で端末の日時を正しく設定してからご利用ください。

USB メモリ/MO/HDD について

1. フォーマットを行うことはできません。
2. 使用可能なディスクは、DOS フォーマットされたものに限られます。
3. ディスク内に新規作成したファイル・フォルダの作成日時は、コントロールパネル内 **[日付と時刻]** で設定されている日時となります。
コントロールパネル内 **[日付と時刻]** で端末の日時を正しく設定してからご利用ください。

CD/DVD について

1. 書込は行えません。

7.2 ローカルプリンタの利用

弊社シンクライアント端末では、サーバーへ接続して、弊社シンクライアント端末の平行ポート、シリアルポートおよびUSBポートに接続したプリンタ（ローカルプリンタと呼びます）から印刷することができます。ここでは、ローカルプリンタへの印刷方法について説明します。

備考:

- ローカルプリンタを利用する場合は、サーバー側にて、クライアントプリンタの利用を許可する設定にしておいてください。
- RXP(GO-Global)セッションでは、シンクライアント端末に取り付けたローカルプリンタの利用はサポートしておりません。

●ICA 接続時に端末本体に接続した USB ストレージを使うには

サーバーへのプリンタドライバインストール

弊社シンクライアント端末でローカルプリンタを利用するには、接続するサーバー上に利用するプリンタのドライバがインストールされている必要があります。

事前にプリンタドライバの説明書を読み、インストールを行ってください。

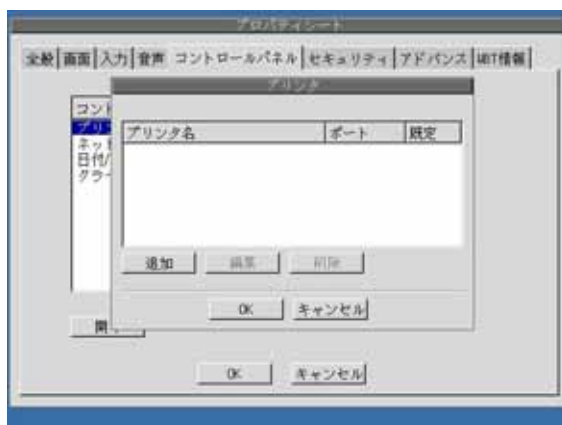
ローカルプリンタの接続

1. シンクライアント端末の電源がOFFになっているのを確認してから、シンクライアント端末の平行ポート、シリアルポートもしくはUSBポートに接続可能なプリンタを取り付けます。
2. シンクライアント端末の電源を入れます。

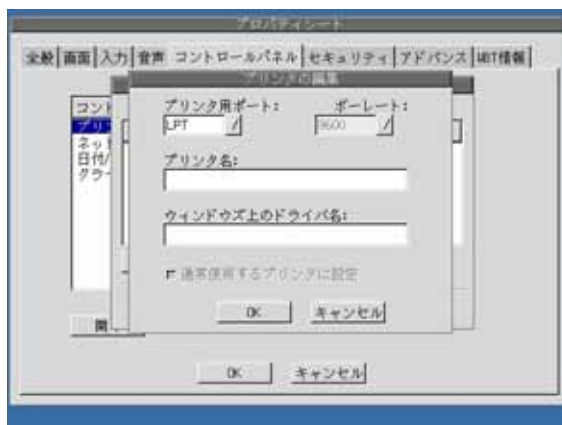
ローカルプリンタの設定

プロパティシート内の[コントロールパネル]にて、ローカルプリンタの設定を行います。

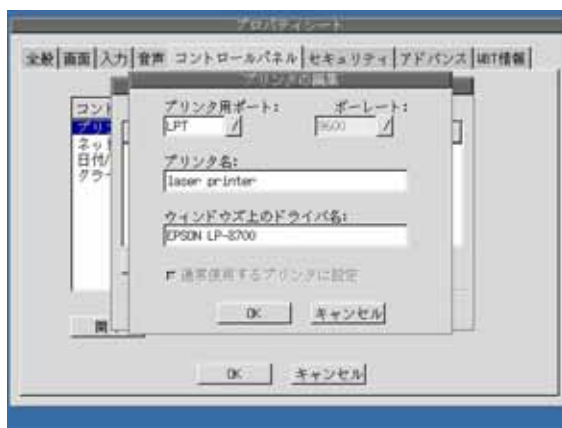
1. 接続マネージャ画面でF2キーを押下し、プロパティシートを起動します。
2. プロパティシート画面で[コントロールパネル]タブをクリックし、[プリンタ]を選択して[開く]をクリックします。



3. [プリンタ] ダイアログボックスが開きます。[追加] ボタンを押下します。



4. [プリンタの編集] ダイアログボックスが開きます。[プリンタ用ポート]、[プリンタ名]、[ウィンドウズ上のドライバ名]を入力します。



[プリンタの編集] ダイアログボックスには、以下の設定項目があります。

[プリンタ用ポート]

プリンタを接続するポートを選択します。

[ボーレート]

[プリンタ用ポート] で、COMx が選択された場合は、シリアルポートの転送速度(単位: bps)を選択します。

[プリンタ名]

追加するプリンタに設定する名前を入力します。

[ウィンドウズ上のドライバ名]

プリンタが使用する、ウィンドウズサーバー上のドライバ名を設定します。

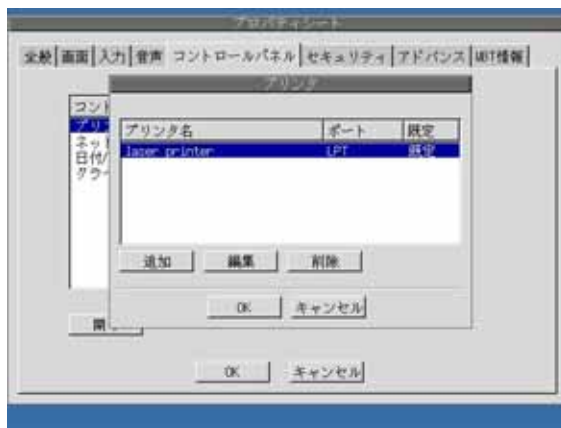
サーバーにプリンタドライバをインストールした際に表示されるモデル名を入力します。

[通常使用するプリンタに設定]

設定を行ったプリンタが、サーバーとのセッション接続時にマッピングを行う場合は、有効にします。(一台のプリンタのみに設定が可能です)

5. 入力が終わったら、[OK] をクリックしてプリンタを登録します。

[プリンタ]ダイアログボックスに戻ります。追加したプリンタがリストに表示されます。



ローカルプリンタの確認

1. 弊社シンクライアント端末からサーバーへ接続を行い、タスクバー上の [スタート] ボタンをクリックし、[設定(S)] をポイントします。
2. [プリンタ(P)] フォルダをクリックします。
3. [プリンタ] ウィンドウが起動します。

この中に設定したプリンタモデルが表示されていることを確認してください。

●RDP 接続時に端末本体に接続した USB ストレージを使うには

サーバーへのプリンタドライバインストール

弊社シンクライアント端末でローカルプリンタを利用するには、接続するサーバー上に利用するプリンタのドライバがインストールされている必要があります。

事前にプリンタドライバの説明書を読み、インストールを行ってください。

ローカルプリンタの接続とエントリの設定

1. シンクライアント端末の電源がOFFになっているのを確認してから、シンクライアント端末 のパラレルポート、シリアルポートもしくは USB ポートに接続可能なプリンタを取り付けます。
2. シンクライアント端末の電源を入れます。

接続マネージャが表示されたら **[構成]** タブをクリックして、画面表示を切り替えます。



3. 端末に取り付けたローカルプリンタを利用したい接続先 (RDP エントリ) をクリックして選択し、ダブルクリックもしくは、**[編集]** ボタンをクリックします。



4. 選択したエントリの編集画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Remote Entry Creation/Editing' dialog box with the 'General' tab selected. The 'Selected Entry' section contains fields for 'Name' (value: 'test-test') and 'Server' (value: '192.168.0.1'). Below this is a section for 'Automatic Login' with fields for 'Username', 'Password', and 'Domain'. At the bottom, there is a 'Data Compression' checkbox and a warning message: '*** 色数が8ビットでないとはたになりません ***'. 'OK' and 'Cancel' buttons are at the bottom right.

5. [ローカルリソース] タブをクリックします。次の画面が表示されます。
[プリンタ] 項目を有効にします。

The screenshot shows the 'Remote Entry Creation/Editing' dialog box with the 'Local Resources' tab selected. The 'Remote Computer Sound' section has a dropdown set to 'Do not play'. The 'Local Devices' section has checkboxes for 'Printer', 'Serial Port', and 'Disk Drive', all of which are checked. The 'Use USB Device' section has a dropdown set to '1'. Below this is a table of USB devices.

USBデバイス	ドライブ	状態
デバイス1	H:	無効
デバイス2	I:	無効
デバイス3	G:	無効
デバイス4	D:	無効
デバイス5	E:	無効
デバイス6	F:	無効

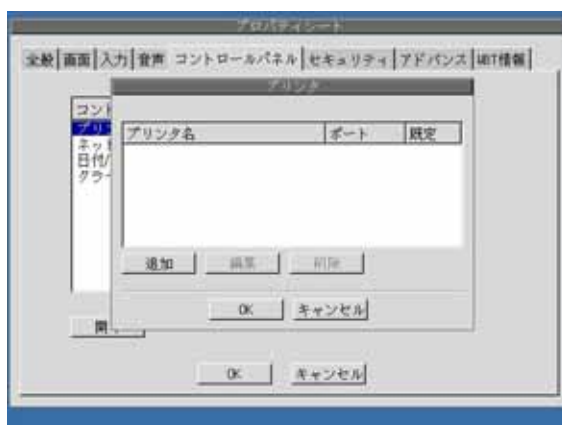
Buttons for 'OK' and 'Cancel' are at the bottom right.

6. [OK] ボタンをクリックして設定を保存します。

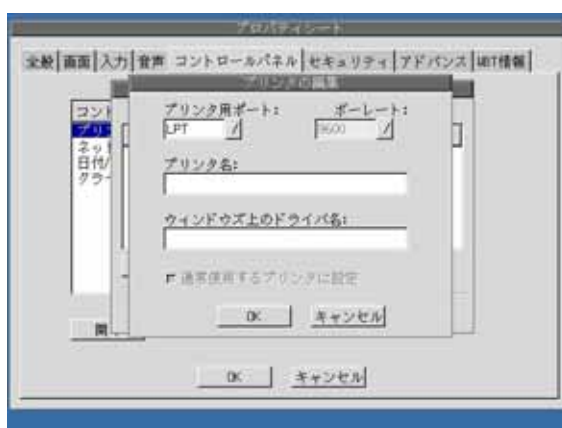
ローカルプリンタの設定

プロパティシート内の[コントロールパネル]にて、ローカルプリンタの設定を行います。

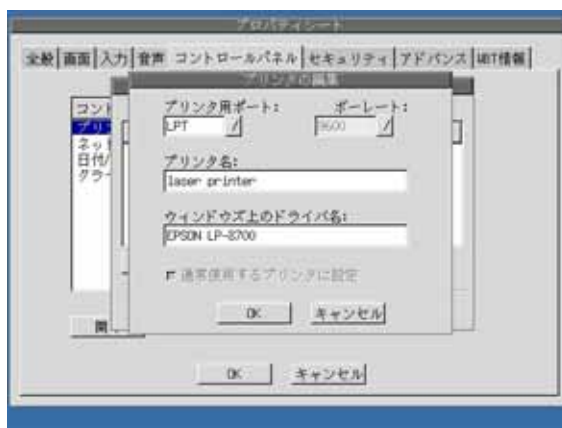
1. 接続マネージャ画面で F2 キーを押下し、プロパティシートを起動します。
2. プロパティシート画面で[コントロールパネル]タブをクリックし、[プリンタ]を選択して [開く] をクリックします。



3. [プリンタ] ダイアログボックスが開きます。[追加] ボタンを押下します。



4. **[プリンタの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[プリンタ用ポート]**、**[プリンタ名]**、**[ウィンドウズ上のドライバ名]**を入力します。



[プリンタの編集] ダイアログボックスには、以下の設定項目があります。

[プリンタ用ポート]

プリンタを接続するポートを選択します。

[ボーレート]

[プリンタ用ポート] で、COMx が選択された場合は、シリアルポートの転送速度(単位: bps)を選択します。

[プリンタ名]

追加するプリンタに設定する名前を入力します。

[ウィンドウズ上のドライバ名]

プリンタが使用する、ウィンドウズサーバー上のドライバ名を設定します。

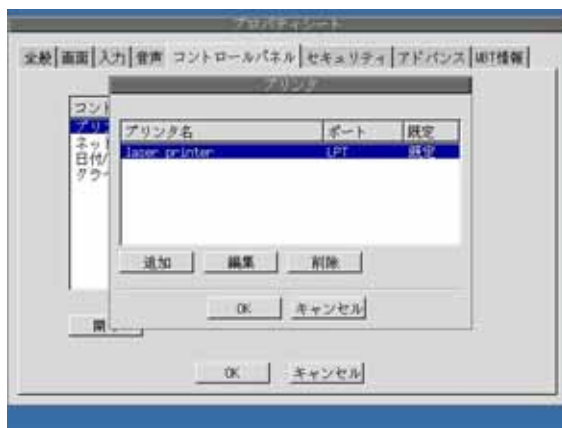
サーバーにプリンタドライバをインストールした際に表示されるモデル名を入力します。

[通常使用するプリンタに設定]

設定を行ったプリンタが、サーバーとのセッション接続時にマッピングを行う場合は、有効にします。(一台のプリンタのみに設定が可能です)

5. 入力が終わったら、**[OK]** をクリックしてプリンタを登録します。

[プリンタ]ダイアログボックスに戻ります。追加したプリンタがリストに表示されます。



ローカルプリンタの確認

1. 弊社シンクライアント端末からサーバーへ接続を行い、タスクバー上の [スタート] ボタンをクリックし、[設定(S)] をポイントします。
2. [プリンタ(P)] フォルダをクリックします。
3. [プリンタ] ウィンドウが起動します。

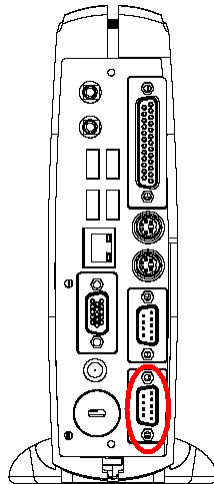
この中に設定したプリンタモデルが表示されていることを確認してください。

7.3 タッチパネルモニタの利用

弊社シンクライアント端末では、弊社がオプションとして提供しているタッチパネルモニタを接続し操作することができます。ここでは、その方法について説明します。

本体にタッチパネルモニタを接続する

- MiNT-ACC mini-30U の場合：
COM2 ポートに、タッチパネルモニタのシリアル接続ケーブルを繋ぎます。



注意：

MiNT-ACC mini-30U の COM1 ポートに、タッチパネルモニタのシリアル接続ケーブルを繋いだ場合、タッチパネル機能は利用できません。

タッチパネル機能を有効にする

注意：

タッチパネル機能をお使いになる時は、セットアップウィザードにて機能を有効にする必要があります。

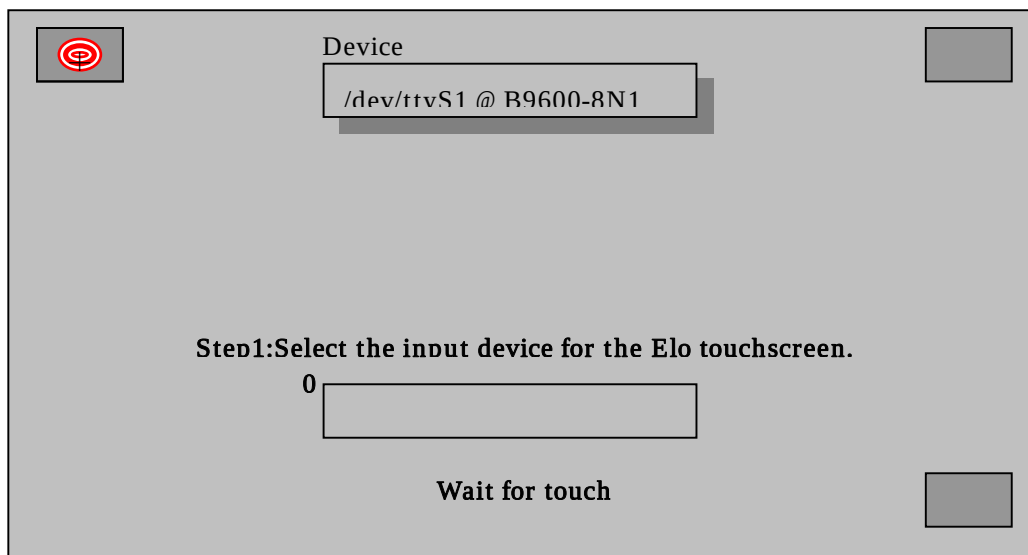
既に、セットアップウィザードの操作を終えられている場合は、再度セットアップウィザードを起動するために、ターミナルプロパティにて「ターミナルを出荷時の設定に初期化する」を実施してください。

1. シンククライアント端末の電源を入れます。
2. セットアップウィザードが起動するので、[次へ] ボタンをクリックします。
3. ネットワーク設定画面が表示されるので、設定を行い [次へ] をクリックします。
4. 画面の設定画面が表示されます。

タッチパネルフィールド内の「タッチパネルを有効にする」項目を有効にしてください。キャリブレーション設定画面に切り替わります。

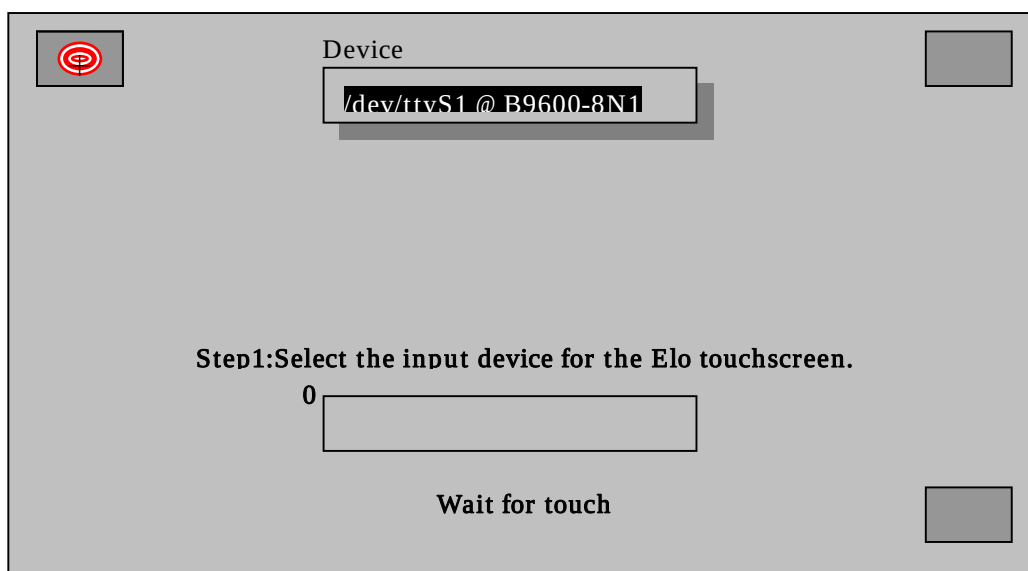
キャリブレーションを実施する

1. 画面上部の Device 項目にて “/dev/ttyS1 @ B9600-8N1” を選択します。



2. Device 選択後、画面左上のキャリブレーションポイントが点滅します。

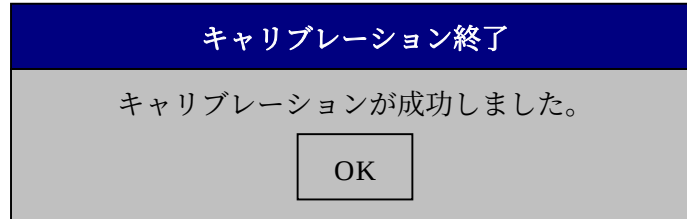
指先で  印の中心を押してください。認識すると、右下に次のポイントが表示されます。



注意：

- キャリブレーションを実施する際は、できるだけ正確にポイントの中央をタッチしてください。
- 指定時間内にキャリブレーション画面をタッチしない場合、自動的にキャリブレーションプログラムは終了します。

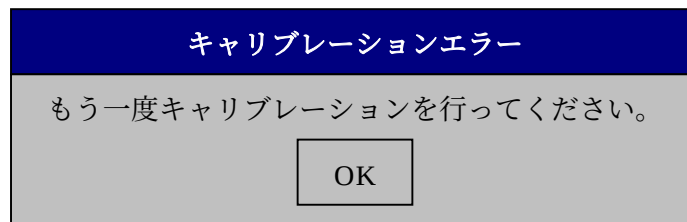
3. 3点すべてタッチし終わると、次のどちらかのダイアログが表示されます。
- キャリブレーション終了ダイアログが表示された場合は、[次へ] をクリックし、日付/時刻の設定画面へ進んでください。



注意：

キャリブレーション成功後も、端末が再起動するまで（ターミナル接続マネージャ画面に切り替わるまで）タッチパネル機能は使えません。

- キャリブレーションエラーダイアログが表示された場合は、[キャリブレーション] ボタンをクリックし、再度キャリブレーションを実施してください。



4. 日付/時刻の設定画面が表示されるので、必要に応じて設定を行い [次へ] をクリックします。
5. ターミナル設定 パスワードの設定画面が表示されるので、必要に応じて設定を行い [次へ] をクリックします。
6. セットアップウィザードの設定完了画面が表示されるので、[終了] ボタンをクリックしてください。
7. 再起動を要求するダイアログが表示されます。「OK」 ボタンをクリックしてください。再起動後（ターミナル接続マネージャ表示時）より、タッチパネル機能が利用可能となります。

キャリブレーション

周囲環境（温度や湿度）の変化、経時変化により検出位置がずれてくる場合があります。

その場合は、セットアップウィザードにて、キャリブレーションを実施してください。

再度セットアップウィザードを起動するために、ターミナルプロパティにて「ターミナルを出荷時の設定に初期化する」を実施してください。